

社会基盤工学専攻・都市社会工学専攻 修士1回生ガイダンス

説明資料

平成 29 年 4 月 5 日(水) 13:15～14:00

桂キャンパス C1-191 号室

目次

履修モデル（社会基盤工学）	3
履修モデル（都市社会工学）	21
履修分野（社会基盤工学）	39
履修分野（都市社会工学）	42
都市社会工学セミナーA,B・社会基盤工学セミナーA,B.....	45
自主企画プロジェクト.....	46
社会基盤工学インターンシップ・長期インターンシップ	47
キャップストーンプロジェクト.....	48
ポートフォリオ	49
レポート試験注意事項.....	62
履修分野「Study Area on Approaches for Disaster Resilience」説明会.....	63
国家公務員試験情報	64
京都大学技術士会 第10回「技術士を目指そう」説明会.....	66

社会基盤工学専攻・都市社会工学専攻

修士課程 1 回生ガイダンス

(平成 29 年 4 月 5 日(水) 13:15~14:00 C1-191 号室)

(1) 専攻長挨拶【13:15~13:20 頃 挨拶】

- ・専攻長 三ヶ田 均 教授 (社会基盤, C1-1-112 号室)
細田 尚 教授 (都市社会, C1-3-265 号室)
- ・教務 山本 貴士 准教授 (社会基盤, C1-3-456 号室) (yamamoto.takashi.6u@kyoto-u.ac.jp)
- ・教務補佐 村田 澄彦 准教授 (都市社会, C1-1-108 号室)

(2) 配布資料

〈工学研究科資料〉

- ・平成 29 年度大学院学修要覧
- ・授業時間割, Campus Life Information 2017 (旧学生便覧), 安全の手引き
- ・検尿容器
- ・京都大学工学研究科に学ぶ大学院生へ (工学研究科共通型科目)
- ・「産学連携研究型インターンシップ」について
- ・研究科横断型教育プログラム
- 他

〈社会基盤・都市社会工学専攻資料〉

- ・履修届 (前期)
- ・授業時間割 (前期・後期)
- ・修士 1 回生ガイダンス 説明資料
- 他

(3) 履修指導【教務 13:20~13:40 頃】

- ・修了要件および取得単位 (学習要覧 社会基盤修士課程: pp.8-12, 都市社会修士課程: pp.13-17, 高度工学コース社会基盤修士課程: p.55-59, 高度工学コース都市社会修士課程: pp.60-64)
 - * 各科目区分の取得単位数, 必修科目 (両専攻), 選択必修科目 (都市社会), 取得単位の総計が 30 単位以上, かつ, 修士論文の審査に合格, 各系必修科目, 科目表から 20 単位以上取得など。
- ・注意事項
 - 他専攻科目=履修 OK, 他研究科科目=聴講願 (4/11 (火) 締切) の提出で履修 OK (いずれも, 指導教員の承認が必要), 学部=聴講願の提出で履修 OK (原則として 30 単位には含まれない)
- ・社会基盤工学セミナーA,B, 都市社会工学セミナーA,B
 - * 「M1, M2 で 3 ポイント, 2 年間で合計 10 ポイント以上」の獲得
- ・都市社会情報論
 - * 開講日: 4 月 13 日 (木) (1 限目 桂 C1-192 号室)
- ・キャップストーンプロジェクト
 - * 開講日 4 月 13 日 (木) (2 限目 桂 C1-173 号室)
- ・自主企画プロジェクト
 - * 開講日 4 月 13 日 (木) (3 限目, 13 時~ 桂 C1-173 号室)
- ・社会基盤工学インターンシップ (社会基盤), 長期インターンシップ (都市社会)
 - * 開講日: 4 月 13 日 (木) (3 限目, 14 時~ 桂 C1-173 号室)
- ・社会基盤工学実習, 都市社会工学実習
- ・隔年開講, 英語科目 (開講時期含む)
- ・履修分野と Certificate について
- ・大学院博士後期課程への進学 * 入試説明会の実施
日時: 平成 29 年 5 月 18 日 (木) 15:00~16:00 (桂 C1-191 号室)
- ・不正行為への対処の説明, レポート試験に関する注意

・履修届

履修登録をしていないと試験を受けられない。必ず履修登録すること

- * まずは、1年度の前期分のみを提出する。その際必ず、指導教員の承認を得ること(捺印をもらう)。
1年度後期および2年度前後期の分は、当該期にその都度、提出する。他専攻の科目は、履修登録用紙の空欄を用いて申請すること。他研究科については聴講願の用紙を事務室に取りに行くこと。他専攻、他研究科の講義科目の受講については指導教員と相談の上、決めること。

4/6(木)-4/12(水)の間に履修届を桂Cクラスター事務区教務掛へ提出

・ポートフォリオ (別紙参照)

半期毎にスキャンしたファイルをメールで提出し、原本は大切に保管すること(修了判定時に提出)。

注) ポートフォリオ作成時の注意事項

1. 主/副の指導教員のサインは直筆とする。
2. 主/副の指導教員のサイン以外は、MSワードを使用して作成すること。
3. 社会基盤工学専攻の修士課程は主指導教員のサインのみ、都市社会工学専攻の修士課程は主指導教員・副指導教員のサインが必要。
4. ポートフォリオのひな型は都市社会工学専攻ホームページからダウンロードできる。

・教務情報のWEBページ (<http://www.um.t.kyoto-u.ac.jp/ja/oncampus/kyomu2017>)

・都市社会工学専攻優秀修士論文賞 (HUME賞)

・健康診断 (掲示あり)

問診票の事前入力 (<http://www.hoken.kyoto-u.ac.jp/service/healthcheck/>),

採尿容器 (早朝尿), 学生証を持参。

桂 : 4月27日(木) 午前 女子: 9:30~10:00 男子: 10:15~11:30

午後 女子: 13:15~13:45 男子: 14:00~15:30

場所: 船井交流センター2F 対象: 桂地区の学生

宇治 : 4月25日(火) 女子: 9:30~10:00 男子: 10:15~11:30

場所: 木質ホール3F 対象: 宇治地区の学生

* 本部でも受検可能 (詳細は各自で確認)

・日本学生支援機構奨学金

詳細は桂Cクラスター事務室まで

(4) その他の連絡事項 (13:40-13:55)

- ・京都大学大学院共通「研究公正と倫理」
- ・グローバル生存学大学院 (GSS)について

(5) 安全教育講習会 (14:00-15:30) 必ず出席すること

社会基盤工学専攻 修士課程（構造系教育プログラム）履修モデル

1. 履修モデルの対象学生

社会基盤工学専攻修士課程に所属し構造系教育プログラムを選択する学生

2. 履修モデルの目的

社会基盤施設の計画，設計，施工，維持管理に関わる構造工学的な諸問題を解決するために、実践的な技術提案や先端的な技術開発を行う能力を持つ技術者・研究者を養成する。このため、材料学、構造力学、耐震・耐風設計、構造物の維持管理に関連する講義科目の履修を推奨する。

3. 履修モデル

学年	講義科目（コア、Major、Minor、その他）	ORT 科目	単位数
M1 前期	自主企画プロジェクト（必修） 構造系教育プログラム必修 3 科目 社会基盤工学専攻の科目標準配当表にある科目群および工学研究科共通科目 2～4 科目	社会基盤工学セミナーA, B （必修、2年間の通年科目。 修了時に学修状況を判断して各 4 単位、合計 8 単位認定）	12 単位
M1 後期	自主企画プロジェクト（必修） 構造系教育プログラム必修 2 科目 社会基盤工学専攻の科目標準配当表にある科目群および工学研究科共通科目 2～4 科目	社会基盤工学セミナーA, B （必修）	10 単位
M2 前期		社会基盤工学セミナーA, B （必修）	
M2 後期		社会基盤工学セミナーA, B （必修） 修士論文（必修）	8 単位 0 単位
単位数	22 単位以上	8 単位以上	30 単位以上

（注意事項）

1) 構造系教育プログラムの必修 5 科目を修得すること。

【構造系教育プログラムに関連する必修科目】

連続体力学、構造安定論、材料・構造マネジメント論、地震・ライフライン工学、社会基盤構造工学

2) 社会基盤工学専攻では修了要件とは別に 6 つの履修分野を定めており、構造系教育プログラムと密接に関連する履修分野として「構造設計技術者・研究者養成分野」、「Study Area of Approaches for Disaster Resilience」がある。履修分野の修了要件を満たすものは、修了時に分野修了証書を受領することができる。履修分野については、別途、ガイダンス時に配布される資料を参照すること。

社会基盤工学専攻 修士課程（水工系教育プログラム）履修モデル

1. 履修モデルの対象学生

社会基盤工学専攻修士課程に所属し水工系教育プログラムを選択する学生

2. 履修モデルの目的

水域を中心とした社会基盤の整備、維持管理、水防災や水環境に関連する諸問題を解決するために、実践的な技術提案や先端的な技術開発を行う能力を持つ技術者・研究者を養成する。このため、流体の乱流現象や数値流体力学、水文循環機構、山地から河川・海岸における水・土砂移動の物理機構に関連する講義科目の履修を推奨する。

3. 履修モデル

学年	講義科目（コア、Major、Minor、その他）	ORT 科目	単位数
M1 前期	自主企画プロジェクト（必修） 水工系教育プログラム必修 4 科目 水工系教育プログラム選択必修科目から 1～3 科目 社会基盤工学専攻の科目標準配当表にある科目群および工学研究科共通科目 0～2 科目	社会基盤工学セミナーA, B （必修、2年間の通年科目。 修了時に学修状況を判断して各 4 単位、合計 8 単位認定）	12 単位
M1 後期	自主企画プロジェクト（必修） 水工系教育プログラム選択必修科目から 0～3 科目 社会基盤工学専攻の科目標準配当表にある科目群および工学研究科共通科目 0～2 科目	社会基盤工学セミナーA, B （必修）	10 単位
M2 前期		社会基盤工学セミナーA, B （必修）	
M2 後期		社会基盤工学セミナーA, B （必修） 修士論文（必修）	8 単位 0 単位
単位数	22 単位以上	8 単位以上	30 単位以上

（注意事項）

1) 水工系教育プログラムの必修 4 科目と合わせて、選択必修科目群から 3 科目以上を修得すること。

【水工系教育プログラムに関連する必修科目】

水理乱流力学、水工計画学、河川マネジメント工学、流砂水理学

【水工系教育プログラムに関連する選択必修科目群】

水文学、開水路の水理学、海岸波動論、水文気象防災学、水資源システム論、流域治水砂防学、沿岸・都市防災工学、「流域環境防災学」、「数値流体力学、水域社会基盤学、応用水文学、環境防災生存科学、流域管理工学

2) 社会基盤工学専攻では修了要件とは別に 6 つの履修分野を定めており、水工系教育プログラムと密接に関連する履修分野として「水工設計技術者・研究者養成分野」、「Study Area of Approaches for Disaster Resilience」がある。履修分野の修了要件を満たすものは、修了時に分野修了証書を受領することができる。履修分野については、別途、ガイダンス時に配布される資料を参照すること。

社会基盤工学専攻 修士課程（地盤系教育プログラム）履修モデル

1. 履修モデルの対象学生

社会基盤工学専攻修士課程に所属し地盤系教育プログラムを選択する学生

2. 履修モデルの目的

土、岩および流体からなる地盤の工学的諸問題を扱う学理・技術分野である地盤力学、基礎工学に加えて、地盤に関連する広範囲の学問と技術を対象とする。地盤力学の基礎から、調査・設計・施工、防災・環境保全・エネルギー資源の技術研究開発を行い、快適な生活環境の創出・保全および充実した社会活動の営みに必要な社会環境基盤の整備・建設・維持などを担う技術者、研究者を養成する。

3. 履修モデル

学年	講義科目（コア、Major、Minor、その他）	ORT 科目	単位数
M1 前期	自主企画プロジェクト（必修） 地盤系教育プログラム選択必修科目から 4 科目 社会基盤工学専攻の科目標準配当表にある科目群および工学研究科共通科目 0～2 科目	社会基盤工学セミナーA, B （必修、2年間の通年科目。 修了時に学修状況を判断して各 4 単位、合計 8 単位認定）	12 単位
M1 後期	自主企画プロジェクト（必修） 地盤系教育プログラム選択必修科目から 1～3 科目 社会基盤工学専攻の科目標準配当表にある科目群および工学研究科共通科目 0～2 科目	社会基盤工学セミナーA, B （必修）	10 単位
M2 前期		社会基盤工学セミナーA, B （必修）	
M2 後期		社会基盤工学セミナーA, B （必修） 修士論文（必修）	8 単位 0 単位
単位数	22 単位以上	8 単位以上	30 単位以上

（注意事項）

- 1) 「地盤力学」、「計算地盤工学」、「ジオリスクマネジメント」、「ジオコンストラクション」、「ジオフロント工学原論」、「環境地盤工学」、「地盤防災工学」の中から 5 科目以上を履修すること。
- 2) 社会基盤工学専攻では修了要件とは別に 6 つの履修分野を定めており、地盤系教育プログラムと密接に関連する履修分野として「地盤設計技術者・研究者養成分野」、「Study Area of Approaches for Disaster Resilience」がある。履修分野の修了要件を満たすものは、修了時に分野修了証書を受領することができる。履修分野については、別途、ガイダンス時に配布される資料を参照すること。

社会基盤工学専攻 修士課程（計画系教育プログラム）履修モデル

1. 履修モデルの対象学生

社会基盤工学専攻修士課程に所属し計画系教育プログラムを選択する学生

2. 履修モデルの目的

社会基盤の整備を通じて人と自然が共生する豊かな国土環境や空間創造に寄与するため、それらに必要な情報技術、計画技術、設計技術、マネジメント技術についての実践的な技術提案や先端的な技術開発を行う能力を持つ技術者・研究者を養成する。このため、計画系の科目群より、自身の研究に深く関連する講義科目を中心とした履修を推奨する。

3. 履修モデル

学年	講義科目（コア、Major、Minor、その他）	ORT 科目	単位数
M1 前期	自主企画プロジェクト（必修） 計画系教育プログラム選択必修科目から 1～5 科目 社会基盤工学専攻の科目標準配当表にある科目群および工学研究科共通科目 0～2 科目	社会基盤工学セミナーA, B （必修、2年間の通年科目。 修了時に学修状況を判断して各 4 単位、合計 8 単位認定）	12 単位
M1 後期	自主企画プロジェクト（必修） 計画系教育プログラム選択必修科目から 0～3 科目 社会基盤工学専攻の科目標準配当表にある科目群および工学研究科共通科目 0～2 科目	社会基盤工学セミナーA, B （必修）	10 単位
M2 前期		社会基盤工学セミナーA, B （必修）	
M2 後期		社会基盤工学セミナーA, B （必修） 修士論文（必修）	8 単位 0 単位
単位数	22 単位以上	8 単位以上	30 単位以上

（注意事項）

1) 計画系教育プログラムの選択必修科目群から 2 科目以上を修得すること。

【計画系教育プログラムに関連する選択必修科目群】

公共財政論、都市社会環境論、人間行動学、交通情報工学、リモートセンシングと地理情報システム、景観デザイン論、リスクマネジメント論、防災情報特論、災害リスク管理論、環境デザイン論

2) 社会基盤工学専攻では修了要件とは別に 6 つの履修分野を定めており、計画系教育プログラムと密接に関連する履修分野として「都市設計技術者・研究者養成分野」、「Study Area of Approaches for Disaster Resilience」がある。履修分野の修了要件を満たすものは、修了時に分野修了証書を受領することができる。履修分野については、別途、ガイダンス時に配布される資料を参照すること。

社会基盤工学専攻 修士課程（資源系教育プログラム）履修モデル

1. 履修モデルの対象学生

社会基盤工学専攻修士課程に所属し資源系教育プログラムを選択する学生

2. 履修モデルの目的

地殻や資源の革新的な利用方法の確立ならびに新資源や新エネルギーの開発に関連する諸問題を解決するために、実践的な技術提案や先端的な技術開発を行う能力を持つ高度な技術者・研究者を養成する。このため、応用地球物理、地殻開発、計測評価、地球資源システム、地殻環境に関連する講義科目の履修を推奨する。

3. 履修モデル

学年	講義科目（コア、Major、Minor、その他）	ORT 科目	単位数
M1 前期	自主企画プロジェクト（必修） 資源系教育プログラム選択必修科目から 1～5 科目 社会基盤工学専攻の科目標準配当表にある科目群および工学研究科共通科目 1～4 科目	社会基盤工学セミナーA, B （必修、2年間の通年科目。 修了時に学修状況を判断して各 4 単位、合計 8 単位認定）	12 単位
M1 後期	自主企画プロジェクト（必修） 資源系教育プログラム選択必修科目から 0～5 科目 社会基盤工学専攻の科目標準配当表にある科目群および工学研究科共通科目 0～4 科目	社会基盤工学セミナーA, B （必修）	10 単位
M2 前期		社会基盤工学セミナーA, B （必修）	
M2 後期		社会基盤工学セミナーA, B （必修） 修士論文（必修）	8 単位 0 単位
単位数	22 単位以上	8 単位以上	30 単位以上

（注意事項）

1) 資源系教育プログラムの選択必修科目群から 3 科目以上を修得すること。

【資源系教育プログラムに関連する選択必修科目群】

資源開発システム工学、応用数理解析、地殻環境工学、応用弾性学、物理探査の基礎数理、地下空間と地殻物性、探査工学特論、地殻環境計測、地球資源学

2) 社会基盤工学専攻では修了要件とは別に 6 つの履修分野を定めており、資源系教育プログラムと密接に関連する履修分野として「資源・エネルギー技術者・研究者養成分野」、「Study Area of Approaches for Disaster Resilience」がある。履修分野の修了要件を満たすものは、修了時にコース修了証書を受領することができる。履修分野については、別途、ガイダンス時に配布される資料を参照すること。

社会基盤工学専攻 修士課程（国際教育プログラム）履修モデル

1. 履修モデルの対象学生

社会基盤工学専攻修士課程に所属し国際教育プログラムを選択する学生

2. 履修モデルの目的

国際的な社会インフラのマネジメント技術の高度化への貢献、および急速な都市化の進むアジア諸国への技術移転を視野に社会全体の要請に応える貢献が必要とされる中で、国際的かつ多角的な視野から新しい技術を開拓できる能力と社会における複雑系の課題を柔軟に解決できる人材を養成する。このため、社会基盤工学に広く関連する英語講義科目の履修を基本とする。

3. 履修モデル

学年	講義科目（コア、Major、Minor、その他）	ORT 科目	単位数
M1 前期	自主企画プロジェクト（必修） 社会基盤工学専攻の科目標準配当表にある英語科目群から 3～6 科目 工学研究科共通英語科目から 0～3 科目	社会基盤工学セミナーA, B （必修、2年間の通年科目。 修了時に学修状況を判断して各 4 単位、合計 8 単位認定）	12 単位
M1 後期	自主企画プロジェクト（必修） 社会基盤工学専攻の科目標準配当表にある英語科目群から 2～5 科目 工学研究科共通英語科目から 0～3 科目	社会基盤工学セミナーA, B （必修）	10 単位
M2 前期		社会基盤工学セミナーA, B （必修）	
M2 後期		社会基盤工学セミナーA, B （必修） 修士論文（必修）	8 単位 0 単位
単位数	22 単位以上	8 単位以上	30 単位以上

（注意事項）

- 1) 科目標準配当表に掲載されている英語科目の中から 10 単位以上を修得することとし、いずれを履修するかについては、指導教員と相談して決定すること。修了要件となる科目は英語科目（「自主企画プロジェクト」、「社会基盤工学セミナーA,B」を含む）に限定される。
- 2) 社会基盤工学専攻では修了要件とは別に 6 つの履修分野を定めており、履修分野の修了要件を満たすものは、修了時に分野修了証書を受領することができる。履修分野については、別途、ガイダンス時に配布される資料を参照すること。

社会基盤工学専攻 高度工学コース（構造系教育プログラム）履修モデル

1. 履修モデルの対象学生

高度工学コース（5年型）に所属し修士課程において構造系教育プログラムを選択する学生、あるいは高度工学コース（3年型）に所属する学生。

2. 履修モデルの目的

社会基盤施設の計画、設計、施工、維持管理に関わる構造工学的な諸問題を解決するために、実践的な技術提案や先端的な技術開発を行う能力を持つ高度な技術者・研究者を養成する。このため、材料学、構造力学、耐震・耐風設計、構造物の維持管理に関連する講義科目の履修を推奨する。

3. 履修モデル

5年型（修士課程）			
学年	講義科目（コア、Major、Minor、その他）	ORT 科目	単位数
M1 前期	自主企画プロジェクト（必修） 構造系教育プログラム必修3科目 社会基盤工学専攻の科目標準配当表にある科目群および工学研究科共通科目2～4科目	社会基盤工学セミナーA, B （必修、2年間の通年科目。 修了時に学修状況を判断して各4単位、合計8単位認定）	12単位
M1 後期	自主企画プロジェクト（必修） 構造系教育プログラム必修2科目 社会基盤工学専攻の科目標準配当表にある科目群および工学研究科共通科目2～4科目	社会基盤工学セミナーA, B （必修）	10単位
M2 前期		社会基盤工学セミナーA, B （必修）	
M2 後期		社会基盤工学セミナーA, B （必修） 修士論文（必修）	8単位 0単位
単位数	22単位以上	8単位以上	30単位以上
5年型（博士後期課程）、3年型（博士後期課程）			
学年	講義科目（コア、Major、Minor、その他）	ORT 科目	単位数
D1 前期	社会基盤工学総合セミナーA（必修） 社会基盤工学総合実習	社会基盤工学 ORT（3年間の通年科目。修了時に学修状況を判断して4単位認定）	2単位
D1 後期	社会基盤工学総合セミナーB（必修） 社会基盤工学総合実習	社会基盤工学 ORT	4単位
D2 前期		社会基盤工学 ORT	
D2 後期		社会基盤工学 ORT	
D3 前期		社会基盤工学 ORT	
D3 後期		社会基盤工学 ORT 博士論文（必修）	4単位 0単位

合計	6 単位以上	4 単位以上	10 単位以上
----	--------	--------	---------

(注意事項)

1) 修士課程では、構造系教育プログラムの必修 5 科目を修得すること。

【構造系教育プログラムに関連する必修科目】

連続体力学、構造安定論、材料・構造マネジメント論、地震・ライフライン工学、社会基盤構造工学

2) 社会基盤工学専攻の修士課程では、修了要件とは別に 6 つの履修分野を定めており、構造系教育プログラムと密接に関連する履修分野として「構造設計技術者・研究者養成分野」、「Study Area of Approaches for Disaster Resilience」がある。履修分野の修了要件を満たすものは、修了時に分野修了証書を受領することができる。履修分野については、別途、ガイダンス時に配布される資料を参照すること。

社会基盤工学専攻 高度工学コース（水工系教育プログラム）履修モデル

1. 履修モデルの対象学生

高度工学コース（5年型）に所属し修士課程において水工系教育プログラムを選択する学生、あるいは高度工学コース（3年型）に所属する学生。

2. 履修モデルの目的

水域を中心とした社会基盤の整備、維持管理、水防災や水環境に関連する諸問題を解決するために、実践的な技術提案や先端的な技術開発を行う能力を持つ高度な技術者・研究者を養成する。このため、流体の乱流現象や数値流体力学、水文循環機構、山地から河川・海岸における水・土砂移動の物理機構に関連する講義科目の履修を推奨する。

3. 履修モデル

5年型（修士課程）			
学年	講義科目（コア、Major、Minor、その他）	ORT 科目	単位数
M1 前期	自主企画プロジェクト（必修） 水工系教育プログラム必修4科目 水工系教育プログラム選択必修科目から1～3科目 社会基盤工学専攻の科目標準配当表にある科目群および工学研究科共通科目0～2科目	社会基盤工学セミナーA, B （必修、2年間の通年科目。 修了時に学修状況を判断して各4単位、合計8単位認定）	12単位
M1 後期	自主企画プロジェクト（必修） 水工系教育プログラム選択必修科目から0～3科目 社会基盤工学専攻の科目標準配当表にある科目群および工学研究科共通科目0～2科目	社会基盤工学セミナーA, B （必修）	10単位
M2 前期		社会基盤工学セミナーA, B （必修）	
M2 後期		社会基盤工学セミナーA, B （必修） 修士論文（必修）	8単位 0単位
単位数	22単位以上	8単位以上	30単位以上
5年型（博士後期課程）、3年型（博士後期課程）			
学年	講義科目（コア、Major、Minor、その他）	ORT 科目	単位数
D1 前期	社会基盤工学総合セミナーA（必修） 社会基盤工学総合実習	社会基盤工学 ORT（3年間の通年科目。修了時に学修状況を判断して4単位認定）	2単位
D1 後期	社会基盤工学総合セミナーB（必修） 社会基盤工学総合実習	社会基盤工学 ORT	4単位
D2 前期		社会基盤工学 ORT	
D2 後期		社会基盤工学 ORT	

D3 前期		社会基盤工学 ORT	
D3 後期		社会基盤工学 ORT 博士論文（必修）	4 単位 0 単位
合計	6 単位以上	4 単位以上	10 単位以上

（注意事項）

1) 修士課程では、水工系教育プログラムの必修 4 科目と合わせて、選択必修科目群から 3 科目以上を修得すること。

【水工系教育プログラムに関連する必修科目】

水理乱流力学、水工計画学、河川マネジメント工学、流砂水理学

【水工系教育プログラムに関連する選択必修科目群】

水文学、開水路の水理学、海岸波動論、水文気象防災学、水資源システム論、流域治水砂防学、沿岸・都市防災工学、流域環境防災学、数値流体力学、水域社会基盤学、応用水文学、環境防災生存科学、流域管理工学

2) 社会基盤工学専攻の修士課程では、修了要件とは別に 6 つの履修分野を定めており、水工系教育プログラムと密接に関連する履修分野として「水工設計技術者・研究者養成分野」、「Study Area of Approaches for Disaster Resilience」がある。履修分野の修了要件を満たすものは、修了時に分野修了証書を受領することができる。履修分野については、別途、ガイダンス時に配布される資料を参照すること。

社会基盤工学専攻 高度工学コース（地盤系教育プログラム）履修モデル

1. 履修モデルの対象学生

高度工学コース（5年型）に所属し修士課程において地盤系教育プログラムを選択する学生、あるいは高度工学コース（3年型）に所属する学生。

2. 履修モデルの目的

土、岩および流体からなる地盤の工学的諸問題を扱う学理・技術分野である地盤力学、基礎工学に加えて、地盤に関連する広範囲の学問と技術を対象とする。地盤力学の基礎から、調査・設計・施工、防災・環境保全・エネルギー資源の技術研究開発を行い、快適な生活環境の創出・保全および充実した社会活動の営みに必要な社会環境基盤の整備・建設・維持などを担う技術者、研究者を養成する。

3. 履修モデル

5年型（修士課程）			
学年	講義科目（コア、Major、Minor、その他）	ORT 科目	単位数
M1 前期	自主企画プロジェクト（必修） 地盤系教育プログラム選択必修科目から4科目 社会基盤工学専攻の科目標準配当表にある科目群および工学研究科共通科目0～2科目	社会基盤工学セミナーA, B （必修、2年間の通年科目。 修了時に学修状況を判断して各4単位、合計8単位認定）	12単位
M1 後期	自主企画プロジェクト（必修） 地盤系教育プログラム選択必修科目から1～3科目 社会基盤工学専攻の科目標準配当表にある科目群および工学研究科共通科目0～2科目	社会基盤工学セミナーA, B （必修）	10単位
M2 前期		社会基盤工学セミナーA, B （必修）	
M2 後期		社会基盤工学セミナーA, B （必修） 修士論文（必修）	8単位 0単位
単位数	22単位以上	8単位以上	30単位以上
5年型（博士後期課程）、3年型（博士後期課程）			
学年	講義科目（コア、Major、Minor、その他）	ORT 科目	単位数
D1 前期	社会基盤工学総合セミナーA（必修） 社会基盤工学総合実習	社会基盤工学 ORT（3年間の通年科目。修了時に学修状況を判断して4単位認定）	2単位
D1 後期	社会基盤工学総合セミナーB（必修） 社会基盤工学総合実習	社会基盤工学 ORT	4単位
D2 前期		社会基盤工学 ORT	
D2 後期		社会基盤工学 ORT	
D3 前期		社会基盤工学 ORT	
D3 後期		社会基盤工学 ORT 博士論文（必修）	4単位 0単位
合計	6単位以上	4単位以上	10単位以上

(注意事項)

- 1) 「地盤力学」、「計算地盤工学」、「ジオリスクマネジメント」、「ジオコンストラクション」、「ジオフロント工学原論」、「環境地盤工学」、「地盤防災工学」の中から5科目以上を履修すること。

- 2) 社会基盤工学専攻の修士課程では、修了要件とは別に6つの履修分野を定めており、地盤系教育プログラムと密接に関連する履修分野として「地盤設計技術者・研究者養成分野」、「Study Area of Approaches for Disaster Resilience」がある。履修分野の修了要件を満たすものは、修了時に分野修了証書を受領することができる。履修分野については、別途、ガイダンス時に配布される資料を参照すること。

社会基盤工学専攻 高度工学コース（計画系教育プログラム）履修モデル

1. 履修モデルの対象学生

高度工学コース（5年型）に所属し修士課程において計画系教育プログラムを選択する学生、あるいは高度工学コース（3年型）に所属する学生。

2. 履修モデルの目的

社会基盤の整備を通じて人と自然が共生する豊かな国土環境や空間創造に寄与するため、それらに必要な情報技術、計画技術、設計技術、マネジメント技術についての実践的な技術提案や先端的な技術開発を行う能力を持つ高度な技術者・研究者を養成する。このため、計画系の科目群より、自身の研究に深く関連する講義科目を中心とした履修を推奨する。

3. 履修モデル

5年型（修士課程）			
学年	講義科目（コア、Major、Minor、その他）	ORT科目	単位数
M1 前期	自主企画プロジェクト（必修） 計画系教育プログラム選択必修科目から1～5科目 社会基盤工学専攻の科目標準配当表にある科目群および工学研究科共通科目0～2科目	社会基盤工学セミナーA, B （必修、2年間の通年科目。 修了時に学修状況を判断して各4単位、合計8単位認定）	12単位
M1 後期	自主企画プロジェクト（必修） 計画系教育プログラム選択必修科目から0～3科目 社会基盤工学専攻の科目標準配当表にある科目群および工学研究科共通科目0～2科目	社会基盤工学セミナーA, B （必修）	10単位
M2 前期		社会基盤工学セミナーA, B （必修）	
M2 後期		社会基盤工学セミナーA, B （必修） 修士論文（必修）	8単位 0単位
単位数	22単位以上	8単位以上	30単位以上
5年型（博士後期課程）、3年型（博士後期課程）			
学年	講義科目（コア、Major、Minor、その他）	ORT科目	単位数
D1 前期	社会基盤工学総合セミナーA（必修） 社会基盤工学総合実習	社会基盤工学 ORT（3年間の通年科目。修了時に学修状況を判断して4単位認定）	2単位
D1 後期	社会基盤工学総合セミナーB（必修） 社会基盤工学総合実習	社会基盤工学 ORT	4単位
D2 前期		社会基盤工学 ORT	
D2 後期		社会基盤工学 ORT	
D3 前期		社会基盤工学 ORT	
D3 後期		社会基盤工学 ORT 博士論文（必修）	4単位 0単位
合計	6単位以上	4単位以上	10単位以上

(注意事項)

1) 修士課程では、計画系教育プログラムの選択必修科目群から2科目以上を修得すること。

【計画系教育プログラムに関連する選択必修科目群】

公共財政論、都市社会環境論、人間行動学、交通情報工学、リモートセンシングと地理情報システム、景観デザイン論、リスクマネジメント論、防災情報特論、災害リスク管理論、環境デザイン論

2) 社会基盤工学専攻の修士課程では、修了要件とは別に6つの履修分野を定めており、計画系教育プログラムと密接に関連する履修分野として「都市設計技術者・研究者養成分野」、「Study Area of Approaches for Disaster Resilience」がある。履修分野の修了要件を満たすものは、修了時に分野修了証書を受領することができる。履修分野については、別途、ガイダンス時に配布される資料を参照すること。

社会基盤工学専攻 高度工学コース（資源系教育プログラム）履修モデル

1. 履修モデルの対象学生

高度工学コース（5年型）に所属し修士課程において資源系教育プログラムを選択する学生、あるいは高度工学コース（3年型）に所属する学生。

2. 履修モデルの目的

地殻や資源の革新的な利用方法の確立ならびに新資源や新エネルギーの開発に関連する諸問題を解決するために、実践的な技術提案や先端的な技術開発を行う能力を持つ高度な技術者・研究者を養成する。このため、応用地球物理、地殻開発、計測評価、地球資源システム、地殻環境に関連する講義科目の履修を推奨する。

3. 履修モデル

5年型（修士課程）			
学年	講義科目（コア、Major、Minor、その他）	ORT 科目	単位数
M1 前期	自主企画プロジェクト（必修） 資源系教育プログラム選択必修科目から1～5科目 社会基盤工学専攻の科目標準配当表にある科目群および工学研究科共通科目1～4科目	社会基盤工学セミナーA, B （必修、2年間の通年科目。 修了時に学修状況を判断して各4単位、合計8単位認定）	12単位
M1 後期	自主企画プロジェクト（必修） 資源系教育プログラム選択必修科目から0～5科目 社会基盤工学専攻の科目標準配当表にある科目群および工学研究科共通科目0～4科目	社会基盤工学セミナーA, B （必修）	10単位
M2 前期		社会基盤工学セミナーA, B （必修）	
M2 後期		社会基盤工学セミナーA, B （必修） 修士論文（必修）	8単位 0単位
単位数	22単位以上	8単位以上	30単位以上
5年型（博士後期課程）、3年型（博士後期課程）			
学年	講義科目（コア、Major、Minor、その他）	ORT 科目	単位数
D1 前期	社会基盤工学総合セミナーA（必修） 社会基盤工学総合実習	社会基盤工学 ORT（3年間の通年科目。修了時に学修状況を判断して4単位認定）	2単位
D1 後期	社会基盤工学総合セミナーB（必修） 社会基盤工学総合実習	社会基盤工学 ORT	4単位
D2 前期		社会基盤工学 ORT	
D2 後期		社会基盤工学 ORT	
D3 前期		社会基盤工学 ORT	
D3 後期		社会基盤工学 ORT 博士論文（必修）	4単位 0単位
合計	6単位以上	4単位以上	10単位以上

(注意事項)

1) 修士課程では、資源系教育プログラムの選択必修科目群から3科目以上を修得すること。

【資源系教育プログラムに関連する選択必修科目群】

資源開発システム工学、応用数理解析、地殻環境工学、応用弾性学、物理探査の基礎数理、地下空間と地殻物性、探査工学特論、地殻環境計測、地球資源学

2) 社会基盤工学専攻の修士課程では、修了要件とは別に6つの履修分野を定めており、資源系教育プログラムと密接に関連する履修分野として「資源・エネルギー技術者・研究者養成分野」、「Study Area of Approaches for Disaster Resilience」がある。履修分野の修了要件を満たすものは、修了時に分野修了証書を受領することができる。履修分野については、別途、ガイダンス時に配布される資料を参照すること。

社会基盤工学専攻 高度工学コース(国際教育プログラム)履修モデル

1. 履修モデルの対象学生

高度工学コース（5年型）に所属し修士課程において国際教育プログラムを選択する学生、あるいは高度工学コース（3年型）に所属する学生。

2. 履修モデルの目的

国際的な社会インフラのマネジメント技術の高度化への貢献、および急速な都市化の進むアジア諸国への技術移転を視野に社会全体の要請に応える貢献が必要とされる中で、国際的かつ多角的な視野から新しい技術を開拓できる能力と社会における複雑系の課題を柔軟に解決できる人材を養成する。このため、社会基盤工学に広く関連する英語講義科目の履修を基本とする。

3. 履修モデル

5年型（修士課程）			
学年	講義科目（コア、Major、Minor、その他）	ORT科目	単位数
M1 前期	自主企画プロジェクト（必修） 社会基盤工学専攻の科目標準配当表にある英語科目群から3～6科目 工学研究科共通英語科目から0～3科目	社会基盤工学セミナーA, B （必修、2年間の通年科目。 修了時に学修状況を判断して各4単位、合計8単位認定）	12単位
M1 後期	自主企画プロジェクト（必修） 社会基盤工学専攻の科目標準配当表にある英語科目群から2～5科目 工学研究科共通英語科目から0～3科目	社会基盤工学セミナーA, B （必修）	10単位
M2 前期		社会基盤工学セミナーA, B （必修）	
M2 後期		社会基盤工学セミナーA, B （必修） 修士論文（必修）	8単位 0単位
単位数	22単位以上	8単位以上	30単位以上
5年型（博士後期課程）、3年型（博士後期課程）			
学年	講義科目（コア、Major、Minor、その他）	ORT科目	単位数
D1 前期	社会基盤工学総合セミナーA（必修） 社会基盤工学総合実習	社会基盤工学 ORT（3年間の通年科目。修了時に学修状況を判断して4単位認定）	2単位
D1 後期	社会基盤工学総合セミナーB（必修） 社会基盤工学総合実習	社会基盤工学 ORT	4単位
D2 前期		社会基盤工学 ORT	
D2 後期		社会基盤工学 ORT	
D3 前期		社会基盤工学 ORT	
D3 後期		社会基盤工学 ORT 博士論文（必修）	4単位 0単位
合計	6単位以上	4単位以上	10単位以上

(注意事項)

- 1) 科目標準配当表に掲載されている英語科目の中から 10 単位以上を修得することとし、いずれを履修するかについては、指導教員と相談して決定すること。修了要件となる科目は英語科目（「自主企画プロジェクト」、「社会基盤工学セミナーA,B」を含む）に限定される。
- 2) 社会基盤工学専攻では修了要件とは別に 6 つの履修分野を定めており、履修分野の修了要件を満たすものは、修了時に分野修了証書を受領することができる。履修分野については、別途、ガイダンス時に配布される資料を参照すること。

都市社会工学専攻 修士課程（構造系教育プログラム）履修モデル

1. 履修モデルの対象学生

都市社会工学専攻修士課程に所属し構造系教育プログラムを選択する学生

2. 履修モデルの目的

社会基盤施設の計画，設計，施工，維持管理に関わる構造工学的な諸問題を解決するために、都市システムの総合的なマネジメント能力を持つ技術者・研究者を養成する。このため、材料学、構造力学、耐震・耐風設計、構造物の維持管理に関連する講義科目の履修を推奨する。

3. 履修モデル

学年	講義科目（コア、Major、Minor、その他）	ORT 科目	単位数
M1 前期	都市社会情報論（必修） 自主企画プロジェクト（選択必修） キャップストーンプロジェクト（選択必修） 構造系教育プログラム必修3科目 都市社会工学専攻の科目標準配当表にある科目群および工学研究科共通科目2～4科目	都市社会工学セミナーA, B （必修、2年間の通年科目。 修了時に学修状況を判断して各4単位、合計8単位認定）	12単位
M1 後期	自主企画プロジェクト（選択必修） キャップストーンプロジェクト（選択必修） 構造系教育プログラム必修2科目 都市社会工学専攻の科目標準配当表にある科目群および工学研究科共通科目2～4科目	都市社会工学セミナーA, B （必修）	10単位
M2 前期		都市社会工学セミナーA, B （必修）	
M2 後期		都市社会工学セミナーA, B （必修） 修士論文（必修）	8単位 0単位
単位数	22単位以上	8単位以上	30単位以上

（注意事項）

1) 構造系教育プログラムの必修5科目を修得すること。

【構造系教育プログラムに関連する必修科目】

連続体力学、構造安定論、材料・構造マネジメント論、地震・ライフライン工学、社会基盤構造工学

2) 都市社会工学専攻では修了要件とは別に7つの履修分野を定めており、構造系教育プログラムと密接に関連する履修分野として「サイスミックデザイン・マネジメント分野」、「Study Area of Approaches for Disaster Resilience」がある。履修分野の修了要件を満たすものは、修了時に分野修了証書を受領することができる。履修分野については、別途、ガイダンス時に配布される資料を参照すること。

都市社会工学専攻 修士課程（水工系教育プログラム）履修モデル

1. 履修モデルの対象学生

都市社会工学専攻修士課程に所属し水工系教育プログラムを選択する学生

2. 履修モデルの目的

流域と都市の中での人と自然との共生や、人の潜在能力を発展させ発揮することができる都市を創生するため、総合的なマネジメント能力を有する「都市水・地盤環境プランナー」を養成する。このため、流体の乱流現象や数値流体力学、水文循環機構、山地から河川・海岸における水・土砂移動の物理機構や河川マネジメントに関連する講義科目の履修を推奨する。

3. 履修モデル

学年	講義科目（コア、Major、Minor、その他）	ORT 科目	単位数
M1 前期	都市社会情報論（必修） 自主企画プロジェクト（選択必修） キャップストーンプロジェクト（選択必修） 水工系教育プログラム必修4科目 水工系教育プログラム選択必修科目から1～3科目 都市社会工学専攻の科目標準配当表にある科目群および工学研究科共通科目0～2科目	都市社会工学セミナーA, B （必修、2年間の通年科目。 修了時に学修状況を判断して各4単位、合計8単位認定）	12単位
M1 後期	自主企画プロジェクト（選択必修） キャップストーンプロジェクト（選択必修） 水工系教育プログラム選択必修科目から0～3科目 都市社会工学専攻の科目標準配当表にある科目群および工学研究科共通科目0～2科目	都市社会工学セミナーA, B （必修）	10単位
M2 前期		都市社会工学セミナーA, B （必修）	
M2 後期		都市社会工学セミナーA, B （必修） 修士論文（必修）	8単位 0単位
単位数	22単位以上	8単位以上	30単位以上

（注意事項）

1) 水工系教育プログラムの必修4科目と合わせて、選択必修科目群から3科目以上を修得すること。

【水工系教育プログラムに関連する必修科目】

水理乱流力学、水工計画学、河川マネジメント工学、流砂水理学

【水工系教育プログラムに関連する選択必修科目群】

水文学、開水路の水理学、海岸波動論、水文気象防災学、水資源システム論、流域治水砂防学、沿岸・都市防災工学、流域環境防災学、数値流体力学、水域社会基盤学、応用水文学、環境防災生存科学、流域管理工学

2) 都市社会工学専攻では修了要件とは別に7つの履修分野を定めており、水工系教育プログラムと密接に関連する履修分野として「都市水・地盤環境マネジメント分野」、「Study Area of Approaches for Disaster Resilience」がある。履修分野の修了要件を満たすものは、修了時に分野修了証書を受領することができる。履修分野については、別途、ガイダンス時に配布される資料を参照すること。

都市社会工学専攻 修士課程（地盤系教育プログラム）履修モデル

1. 履修モデルの対象学生

都市社会工学専攻修士課程に所属し地盤系教育プログラムを選択する学生

2. 履修モデルの目的

流域と都市の中での人と自然との共生や人の潜在能力を発展させ発揮することができる都市を目指す都市水・地盤環境プランナーを養成する。特に、地盤力学の基礎から、調査・設計・施工、防災・環境保全・エネルギー資源の技術研究開発を行い、快適な生活環境の創出・保全および充実した社会活動の営みに必要な社会環境基盤の整備・建設・維持などを担う技術者、研究者を養成する。

3. 履修モデル

学年	講義科目（コア、Major、Minor、その他）	ORT 科目	単位数
M1 前期	都市社会情報論（必修） 自主企画プロジェクト（選択必修） キャップストーンプロジェクト（選択必修） 地盤系教育プログラム選択必修科目から4科目 都市社会工学専攻の科目標準配当表にある科目群および工学研究科共通科目 0～2 科目	都市社会工学セミナーA, B （必修、2年間の通年科目。 修了時に学修状況を判断して各4単位、合計8単位認定）	12 単位
M1 後期	自主企画プロジェクト（選択必修） キャップストーンプロジェクト（選択必修） 地盤系教育プログラム選択必修科目から1～3科目 都市社会工学専攻の科目標準配当表にある科目群および工学研究科共通科目 0～2 科目	都市社会工学セミナーA, B （必修）	10 単位
M2 前期		都市社会工学セミナーA, B （必修）	
M2 後期		都市社会工学セミナーA, B （必修） 修士論文（必修）	8 単位 0 単位
単位数	22 単位以上	8 単位以上	30 単位以上

（注意事項）

1) 「地盤力学」、「計算地盤工学」、「ジオリスクマネジメント」、「ジオコンストラクション」、「ジオフロント工学原論」、「環境地盤工学」、「地盤防災工学」の中から5科目以上を履修すること。

2) 都市社会工学専攻では修了要件とは別に7つの履修分野を定めており、地盤系教育プログラムと密接に関連する履修分野として「都市水・地盤環境マネジメント分野」、「Study Area of Approaches for Disaster Resilience」がある。履修分野の修了要件を満たすものは、修了時に分野修了証書を受領することができる。履修分野については、別途、ガイダンス時に配布される資料を参照すること。

都市社会工学専攻 修士課程（計画系教育プログラム）履修モデル

1. 履修モデルの対象学生

都市社会工学専攻修士課程に所属し計画系教育プログラムを選択する学生

2. 履修モデルの目的

都市社会における豊かな環境創成を導くための総合的なプランニング手法の開発と持続発展を促す環境デザイン、およびマネジメントに関連する諸問題の解決を目指して、総合的なマネジメント能力を有する「公共政策プランナー／マネジャー」、「国際プロジェクトマネジャー」、「都市交通政策プランナー」を養成する。このため、計画系の科目群より、自身の研究に深く関連する講義科目を中心とした履修を推奨する。

3. 履修モデル

学年	講義科目（コア、Major、Minor、その他）	ORT 科目	単位数
M1 前期	都市社会情報論（必修） 自主企画プロジェクト（選択必修） キャップストーンプロジェクト（選択必修） 計画系教育プログラム選択必修科目から 1～5 科目 都市社会工学専攻の科目標準配当表にある科目群および工学研究科共通科目 0～2 科目	都市社会工学セミナーA, B （必修、2 年間の通年科目。 修了時に学修状況を判断して各 4 単位、合計 8 単位認定）	12 単位
M1 後期	自主企画プロジェクト（選択必修） キャップストーンプロジェクト（選択必修） 計画系教育プログラム選択必修科目から 0～3 科目 都市社会工学専攻の科目標準配当表にある科目群および工学研究科共通科目 0～2 科目	都市社会工学セミナーA, B （必修）	10 単位
M2 前期		都市社会工学セミナーA, B （必修）	
M2 後期		都市社会工学セミナーA, B （必修） 修士論文（必修）	8 単位 0 単位
単位数	22 単位以上	8 単位以上	30 単位以上

（注意事項）

1) 計画系教育プログラムの選択必修科目群から 2 科目以上を修得すること。

【計画系教育プログラムに関連する選択必修科目群】

公共財政論、都市社会環境論、人間行動学、交通情報工学、リモートセンシングと地理情報システム、景観デザイン論、リスクマネジメント論、防災情報特論、災害リスク管理論、環境デザイン論

2) 都市社会工学専攻では修了要件とは別に 7 つの履修分野を定めており、計画系教育プログラムと密接に関連する履修分野として「公共政策計画・管理分野」、「国際プロジェクトマネジメント分野」、「都市交通政策分野（都市地域計画、都市交通政策論）」、「Study Area of Approaches for Disaster Resilience」がある。履修分野の修了要件を満たすものは、修了時に分野修了証書を受領することができる。履修分野については、別途、ガイダンス時に配布される資料を参照すること。

都市社会工学専攻 修士課程（資源系教育プログラム）履修モデル

1. 履修モデルの対象学生

都市社会工学専攻修士課程に所属し資源系教育プログラムを選択する学生

2. 履修モデルの目的

地殻や資源の革新的な利用方法の確立、新資源や新エネルギーの開発を通して人と資源とが共生できる都市を創生するため、総合的なマネジメント能力および技術開発能力を有する資源・エネルギー技術者・研究者を養成する。このため、応用地球物理、地殻開発、計測評価、地球資源システム、地殻環境に関連する講義科目の履修を推奨する。

3. 履修モデル

学年	講義科目（コア、Major、Minor、その他）	ORT 科目	単位数
M1 前期	都市社会情報論（必修） 自主企画プロジェクト（選択必修） キャップストーンプロジェクト（選択必修） 資源系教育プログラム選択必修科目から 1～5 科目 都市社会工学専攻の科目標準配当表にある科目群および工学研究科共通科目 1～4 科目	都市社会工学セミナーA, B （必修、2年間の通年科目。 修了時に学修状況を判断して各 4 単位、合計 8 単位認定）	12 単位
M1 後期	自主企画プロジェクト（選択必修） キャップストーンプロジェクト（選択必修） 資源系教育プログラム選択必修科目から 0～5 科目 都市社会工学専攻の科目標準配当表にある科目群および工学研究科共通科目 0～4 科目	都市社会工学セミナーA, B （必修）	10 単位
M2 前期		都市社会工学セミナーA, B （必修）	
M2 後期		都市社会工学セミナーA, B （必修） 修士論文（必修）	8 単位 0 単位
単位数	22 単位以上	8 単位以上	30 単位以上

（注意事項）

1) 資源系教育プログラムの選択必修科目群から 3 科目以上を修得すること。

【資源系教育プログラムに関連する選択必修科目群】

資源開発システム工学、応用数理解析、地殻環境工学、応用弾性学、物理探査の基礎数理、地下空間と地殻物性、探査工学特論、地殻環境計測、地球資源学

2) 都市社会工学専攻では修了要件とは別に 7 つの履修分野を定めており、資源系教育プログラムと密接に関連する履修分野として「資源・エネルギー技術者・研究者養成分野」、「Study Area of Approaches for Disaster Resilience」がある。履修分野の修了要件を満たすものは、修了時に分野修了証書を受領することができる。履修分野については、別途、ガイダンス時に配布される資料を参照すること。

都市社会工学専攻 修士課程（国際教育プログラム）履修モデル

1. 履修モデルの対象学生

都市社会工学専攻修士課程に所属し国際教育プログラムを選択する学生

2. 履修モデルの目的

国際的に競争力のある社会基盤整備を進め、社会経済的な発展を成し遂げるための都市政策、都市マネジメント技術の開発、並びに専門的知識とリーダーシップを兼ね備えた人材を養成する。このため、都市社会工学に広く関連する英語講義科目の履修を基本とする。

3. 履修モデル

学年	講義科目（コア、Major、Minor、その他）	ORT 科目	単位数
M1 前期	都市社会情報論（必修） 自主企画プロジェクト（選択必修） キャップストーンプロジェクト（選択必修） 都市社会工学専攻の科目標準配当表にある英語科目群から 1～6 科目 工学研究科共通英語科目から 0～5 科目	都市社会工学セミナーA, B （必修、2年間の通年科目。 修了時に学修状況を判断して各 4 単位、合計 8 単位認定）	12 単位
M1 後期	自主企画プロジェクト（選択必修） キャップストーンプロジェクト（選択必修） 都市社会工学専攻の科目標準配当表にある英語科目群から 1～5 科目 工学研究科共通英語科目から 0～4 科目	都市社会工学セミナーA, B （必修）	10 単位
M2 前期		都市社会工学セミナーA, B （必修）	
M2 後期		都市社会工学セミナーA, B （必修） 修士論文（必修）	8 単位 0 単位
単位数	22 単位以上	8 単位以上	30 単位以上

（注意事項）

1) 科目標準配当表に掲載されている英語科目の中から 4 単位以上を修得することとし、いずれを履修するかについては、指導教員と相談して決定すること。修了要件となる科目は英語科目（「都市社会情報論」「自主企画プロジェクト」、「キャップストーンプロジェクト」、「都市社会工学セミナーA,B」を含む）に限定される。

2) 都市社会工学専攻の修士課程では、修了要件とは別に 7 つの履修分野を定めており、履修分野の修了要件を満たすものは、修了時に分野修了証書を受領することができる。履修分野については、別途、ガイダンス時に配布される資料を参照すること。

都市社会工学専攻 高度工学コース（構造系教育プログラム）履修モデル

1. 履修モデルの対象学生

高度工学コース（5年型）に所属し修士課程において構造系教育プログラムを選択する学生、あるいは高度工学コース（3年型）に所属する学生。

2. 履修モデルの目的

社会基盤施設の計画、設計、施工、維持管理に関わる構造工学的な諸問題を解決するために、都市システムの総合的なマネジメント能力を持つ技術者・研究者を養成する。このため、材料学、構造力学、耐震・耐風設計、構造物の維持管理に関連する講義科目の履修を推奨する。

3. 履修モデル

5年型（修士課程）			
学年	講義科目（コア、Major、Minor、その他）	ORT 科目	単位数
M1 前期	都市社会情報論（必修） 自主企画プロジェクト（選択必修） キャップストーンプロジェクト（選択必修） 構造系教育プログラム必修3科目 都市社会工学専攻の科目標準配当表にある科目群および工学研究科共通科目2~4科目	都市社会工学セミナーA, B （必修、2年間の通年科目。 修了時に学修状況を判断して各4単位、合計8単位認定）	12単位
M1 後期	自主企画プロジェクト（選択必修） キャップストーンプロジェクト（選択必修） 構造系教育プログラム必修2科目 都市社会工学専攻の科目標準配当表にある科目群および工学研究科共通科目2~4科目	都市社会工学セミナーA, B （必修）	10単位
M2 前期		都市社会工学セミナーA, B （必修）	
M2 後期		都市社会工学セミナーA, B （必修） 修士論文（必修）	8単位 0単位
単位数	22単位以上	8単位以上	30単位以上
5年型（博士後期課程）、3年型（博士後期課程）			
学年	講義科目（コア、Major、Minor、その他）	ORT 科目	単位数
D1 前期	都市社会工学総合セミナーA（必修） 都市社会工学総合実習	都市社会工学 ORT（3年間の通年科目。修了時に学修状況を判断して4単位認定）	2単位
D1 後期	都市社会工学総合セミナーB（必修） 都市社会工学総合実習	都市社会工学 ORT	4単位
D2 前期		都市社会工学 ORT	
D2 後期		都市社会工学 ORT	
D3 前期		都市社会工学 ORT	
D3 後期		都市社会工学 ORT 博士論文（必修）	4単位 0単位
合計	6単位以上	4単位以上	10単位以上

(注意事項)

1) 修士課程では、構造系教育プログラムの必修 5 科目を修得すること。

【構造系教育プログラムに関連する必修科目】

連続体力学、構造安定論、材料・構造マネジメント論、地震・ライフライン工学、社会基盤構造工学

2) 都市社会工学専攻の修士課程では、修了要件とは別に 7 つの履修分野を定めており、構造系教育プログラムと密接に関連する履修分野として「サイスミックデザイン・マネジメント分野」、「Study Area of Approaches for Disaster Resilience」がある。履修分野の修了要件を満たすものは、修了時に分野修了証書を受領することができる。履修分野については、別途、ガイダンス時に配布される資料を参照すること。

都市社会工学専攻 高度工学コース（水工系教育プログラム）履修モデル

1. 履修モデルの対象学生

高度工学コース（5年型）に所属し修士課程において水工系教育プログラムを選択する学生、あるいは高度工学コース（3年型）に所属する学生。

2. 履修モデルの目的

流域と都市の中での人と自然との共生や、人の潜在能力を発展させ発揮することができる都市を創生するため、総合的なマネジメント能力を有する国際的な「都市水・地盤環境プランナー」を養成する。このため、流体の乱流現象や数値流体力学、水文循環機構、山地から河川・海岸における水・土砂移動の物理機構や河川マネジメントに関連する講義科目の履修を推奨する。

3. 履修モデル

5年型（修士課程）			
学年	講義科目（コア、Major、Minor、その他）	ORT 科目	単位数
M1 前期	都市社会情報論（必修） 自主企画プロジェクト（選択必修） キャップストーンプロジェクト（選択必修） 水工系教育プログラム必修4科目 水工系教育プログラム選択必修科目から1～3科目 都市社会工学専攻の科目標準配当表にある科目群および工学研究科共通科目0～2科目	都市社会工学セミナーA, B （必修、2年間の通年科目。 修了時に学修状況を判断して各4単位、合計8単位認定）	12単位
M1 後期	自主企画プロジェクト（選択必修） キャップストーンプロジェクト（選択必修） 水工系教育プログラム選択必修科目から0～3科目 都市社会工学専攻の科目標準配当表にある科目群および工学研究科共通科目0～2科目	都市社会工学セミナーA, B （必修）	10単位
M2 前期		都市社会工学セミナーA, B （必修）	
M2 後期		都市社会工学セミナーA, B （必修） 修士論文（必修）	8単位 0単位
単位数	22単位以上	8単位以上	30単位以上
5年型（博士後期課程）、3年型（博士後期課程）			
学年	講義科目（コア、Major、Minor、その他）	ORT 科目	単位数
D1 前期	都市社会工学総合セミナーA（必修） 都市社会工学総合実習	都市社会工学 ORT（3年間の通年科目。修了時に学修状況を判断して4単位認定）	2単位
D1 後期	都市社会工学総合セミナーB（必修） 都市社会工学総合実習	都市社会工学 ORT	4単位

D2 前期		都市社会工学 ORT	
D2 後期		都市社会工学 ORT	
D3 前期		都市社会工学 ORT	
D3 後期		都市社会工学 ORT 博士論文（必修）	4 単位 0 単位
合計	6 単位以上	4 単位以上	10 単位以上

（注意事項）

1) 修士課程では、水工系教育プログラムの必修 4 科目と合わせて、選択必修科目群から 3 科目以上を修得すること。

【水工系教育プログラムに関連する必修科目】

水理乱流力学、水工計画学、河川マネジメント工学、流砂水理学

【水工系教育プログラムに関連する選択必修科目群】

水文学、開水路の水理学、海岸波動論、水文気象防災学、水資源システム論、流域治水砂防学、沿岸・都市防災工学、流域環境防災学、数値流体力学、水域社会基盤学、応用水文学、環境防災生存科学、流域管理工学

2) 都市社会工学専攻の修士課程では、修了要件とは別に 7 つの履修分野を定めており、水工系教育プログラムと密接に関連する履修分野として「都市水・地盤環境マネジメント分野」、「Study Area of Approaches for Disaster Resilience」がある。履修分野の修了要件を満たすものは、修了時に分野修了証書を受領することができる。履修分野については、別途、ガイダンス時に配布される資料を参照すること。

都市社会工学専攻 高度工学コース（地盤系教育プログラム）履修モデル

1. 履修モデルの対象学生

高度工学コース（5年型）に所属し修士課程において地盤系教育プログラムを選択する学生、あるいは高度工学コース（3年型）に所属する学生。

2. 履修モデルの目的

流域と都市の中での人と自然との共生や人の潜在能力を発展させ発揮することができる都市を目指す都市水・地盤環境プランナーを養成する。特に、地盤力学の基礎から、調査・設計・施工、防災・環境保全・エネルギー資源の技術研究開発を行い、快適な生活環境の創出・保全および充実した社会活動の営みに必要な社会環境基盤の整備・建設・維持などを担う技術者、研究者を養成する。

3. 履修モデル

5年型（修士課程）			
学年	講義科目（コア、Major、Minor、その他）	ORT 科目	単位数
M1 前期	都市社会情報論（必修） 自主企画プロジェクト（選択必修） キャップストーンプロジェクト（選択必修） 地盤系教育プログラム選択必修科目から 4 科目 都市社会工学専攻の科目標準配当表にある科目群および工学研究科共通科目 0～2 科目	都市社会工学セミナーA, B （必修、2年間の通年科目。 修了時に学修状況を判断して各 4 単位、合計 8 単位認定）	12 単位
M1 後期	自主企画プロジェクト（選択必修） キャップストーンプロジェクト（選択必修） 地盤系教育プログラム選択必修科目から 1～3 科目 都市社会工学専攻の科目標準配当表にある科目群および工学研究科共通科目 0～2 科目	都市社会工学セミナーA, B （必修）	10 単位
M2 前期		都市社会工学セミナーA, B （必修）	
M2 後期		都市社会工学セミナーA, B （必修） 修士論文（必修）	8 単位 0 単位
単位数	22 単位以上	8 単位以上	30 単位以上
5年型（博士後期課程）、3年型（博士後期課程）			
学年	講義科目（コア、Major、Minor、その他）	ORT 科目	単位数
D1 前期	都市社会工学総合セミナーA（必修） 都市社会工学総合実習	都市社会工学 ORT（3年間の通年科目。修了時に学修状況を判断して 4 単位認定）	2 単位
D1 後期	都市社会工学総合セミナーB（必修） 都市社会工学総合実習	都市社会工学 ORT	4 単位
D2 前期		都市社会工学 ORT	

D2 後期		都市社会工学 ORT	
D3 前期		都市社会工学 ORT	
D3 後期		都市社会工学 ORT 博士論文（必修）	4 単位 0 単位
合計	6 単位以上	4 単位以上	10 単位以上

（注意事項）

1) 「地盤力学」、「計算地盤工学」、「ジオリスクマネジメント」、「ジオコンストラクション」、「ジオフロント工学原論」、「環境地盤工学」、「地盤防災工学」の中から 5 科目以上を履修すること。

2) 都市社会工学専攻の修士課程では、修了要件とは別に 7 つの履修分野を定めており、地盤系教育プログラムと密接に関連する履修分野として「都市水・地盤環境マネジメント分野」、「Study Area of Approaches for Disaster Resilience」がある。履修分野の修了要件を満たすものは、修了時に分野修了証書を受領することができる。履修分野については、別途、ガイダンス時に配布される資料を参照すること。

都市社会工学専攻 高度工学コース（計画系教育プログラム）履修モデル

1. 履修モデルの対象学生

高度工学コース（5年型）に所属し修士課程において計画系教育プログラムを選択する学生、あるいは高度工学コース（3年型）に所属する学生。

2. 履修モデルの目的

都市社会における豊かな環境創成を導くための総合的なプランニング手法の開発と持続発展を促す環境デザイン、およびマネジメントに関連する諸問題の解決を目指して、総合的なマネジメント能力を有する国際的な「公共政策プランナー／マネジャー」、「国際プロジェクトマネジャー」、「都市交通政策プランナー」を養成する。このため、計画系の科目群より、自身の研究に深く関連する講義科目を中心とした履修を推奨する。

3. 履修モデル

5年型（修士課程）			
学年	講義科目（コア、Major、Minor、その他）	ORT 科目	単位数
M1 前期	都市社会情報論（必修） 自主企画プロジェクト（選択必修） キャップストーンプロジェクト（選択必修） 計画系教育プログラム選択必修科目から 1～5 科目 都市社会工学専攻の科目標準配当表にある科目群および工学研究科共通科目 0～2 科目	都市社会工学セミナーA, B （必修、2年間の通年科目。 修了時に学修状況を判断して各 4 単位、合計 8 単位認定）	12 単位
M1 後期	自主企画プロジェクト（選択必修） キャップストーンプロジェクト（選択必修） 計画系教育プログラム選択必修科目から 0～3 科目 都市社会工学専攻の科目標準配当表にある科目群および工学研究科共通科目 0～2 科目	都市社会工学セミナーA, B （必修）	10 単位
M2 前期		都市社会工学セミナーA, B （必修）	
M2 後期		都市社会工学セミナーA, B （必修） 修士論文（必修）	8 単位 0 単位
単位数	22 単位以上	8 単位以上	30 単位以上
5年型（博士後期課程）、3年型（博士後期課程）			
学年	講義科目（コア、Major、Minor、その他）	ORT 科目	単位数
D1 前期	都市社会工学総合セミナーA（必修） 都市社会工学総合実習	都市社会工学 ORT（3年間の通年科目。修了時に学修状況を判断して4単位認定）	2 単位
D1 後期	都市社会工学総合セミナーB（必修） 都市社会工学総合実習	都市社会工学 ORT	4 単位

D2 前期		都市社会工学 ORT	
D2 後期		都市社会工学 ORT	
D3 前期		都市社会工学 ORT	
D3 後期		都市社会工学 ORT 博士論文（必修）	4 単位 0 単位
合計	6 単位以上	4 単位以上	10 単位以上

（注意事項）

1) 修士課程では、計画系教育プログラムの選択必修科目群から 2 科目以上を修得すること。

【計画系教育プログラムに関連する選択必修科目群】

公共財政論、都市社会環境論、人間行動学、交通情報工学、リモートセンシングと地理情報システム、景観デザイン論、リスクマネジメント論、防災情報特論、災害リスク管理論、環境デザイン論

2) 都市社会工学専攻の修士課程では、修了要件とは別に 7 つの履修分野を定めており、計画系教育プログラムと密接に関連する履修分野として「公共政策計画・管理分野」、「国際プロジェクトマネジメント分野」、「都市交通政策分野（都市地域計画、都市交通政策論）」、「Study Area of Approaches for Disaster Resilience」がある。履修分野の修了要件を満たすものは、修了時に分野修了証書を受領することができる。履修分野については、別途、ガイダンス時に配布される資料を参照すること。

都市社会工学専攻 高度工学コース（資源系教育プログラム）履修モデル

1. 履修モデルの対象学生

高度工学コース（5年型）に所属し修士課程において資源系教育プログラムを選択する学生、あるいは高度工学コース（3年型）に所属する学生。

2. 履修モデルの目的

地殻や資源の革新的な利用方法の確立、新資源や新エネルギーの開発を通して人と資源とが共生できる都市を創生するため、総合的なマネジメント能力および技術開発能力を有する資源・エネルギー技術者・研究者を養成する。このため、応用地球物理、地殻開発、計測評価、地球資源システム、地殻環境に関連する講義科目の履修を推奨する。

3. 履修モデル

5年型（修士課程）			
学年	講義科目（コア、Major、Minor、その他）	ORT 科目	単位数
M1 前期	都市社会情報論（必修） 自主企画プロジェクト（選択必修） キャップストーンプロジェクト（選択必修） 資源系教育プログラム選択必修科目から 1～5 科目 都市社会工学専攻の科目標準配当表にある科目群および工学研究科共通科目 1～4 科目	都市社会工学セミナーA, B （必修、2年間の通年科目。 修了時に学修状況を判断して各 4 単位、合計 8 単位認定）	12 単位
M1 後期	自主企画プロジェクト（選択必修） キャップストーンプロジェクト（選択必修） 資源系教育プログラム選択必修科目から 0～5 科目 都市社会工学専攻の科目標準配当表にある科目群および工学研究科共通科目 0～4 科目	都市社会工学セミナーA, B （必修）	10 単位
M2 前期		都市社会工学セミナーA, B （必修）	
M2 後期		都市社会工学セミナーA, B （必修） 修士論文（必修）	8 単位 0 単位
単位数	22 単位以上	8 単位以上	30 単位以上
5年型（博士後期課程）、3年型（博士後期課程）			
学年	講義科目（コア、Major、Minor、その他）	ORT 科目	単位数
D1 前期	都市社会工学総合セミナーA（必修） 都市社会工学総合実習	都市社会工学 ORT（3年間の通年科目。修了時に学修状況を判断して4単位認定）	2 単位
D1 後期	都市社会工学総合セミナーB（必修） 都市社会工学総合実習	都市社会工学 ORT	4 単位
D2 前期		都市社会工学 ORT	

D2 後期		都市社会工学 ORT	
D3 前期		都市社会工学 ORT	
D3 後期		都市社会工学 ORT 博士論文（必修）	4 単位 0 単位
合計	6 単位以上	4 単位以上	10 単位以上

（注意事項）

1) 修士課程では、資源系教育プログラムの選択必修科目群から 3 科目以上を修得すること。

【資源系教育プログラムに関連する選択必修科目群】

資源開発システム工学、応用数理解析、地殻環境工学、応用弾性学、物理探査の基礎数理、地下空間と地殻物性、探査工学特論、地殻環境計測、地球資源学

2) 都市社会工学専攻の修士課程では、修了要件とは別に 7 つの履修分野を定めており、資源系教育プログラムと密接に関連する履修分野として「資源・エネルギー技術者・研究者養成分野」、「Study Area of Approaches for Disaster Resilience」がある。履修分野の修了要件を満たすものは、修了時に分野修了証書を受領することができる。履修分野については、別途、ガイダンス時に配布される資料を参照すること。

都市社会工学専攻 高度工学コース（国際教育プログラム）履修モデル

1. 履修モデルの対象学生

高度工学コース（5年型）に所属し修士課程において都市地域開発国際教育プログラムを選択する学生、あるいは高度工学コース（3年型）に所属する学生。

2. 履修モデルの目的

国際的に競争力のある社会基盤整備を進め、社会経済的な発展を成し遂げるための都市政策、都市マネジメント技術の開発、並びに専門的知識とリーダーシップを兼ね備えた人材を養成する。このため、都市社会工学に広く関連する英語講義科目の履修を基本とする。

3. 履修モデル

5年型（修士課程）			
学年	講義科目（コア、Major、Minor、その他）	ORT 科目	単位数
M1 前期	都市社会情報論（必修） 自主企画プロジェクト（選択必修） キャップストーンプロジェクト（選択必修） 都市社会工学専攻の科目標準配当表にある英語科目群から1～6科目 工学研究科共通英語科目から0～5科目	都市社会工学セミナーA, B （必修、2年間の通年科目。 修了時に学修状況を判断して各4単位、合計8単位認定）	12単位
M1 後期	自主企画プロジェクト（選択必修） キャップストーンプロジェクト（選択必修） 都市社会工学専攻の科目標準配当表にある英語科目群から1～5科目 工学研究科共通英語科目から0～4科目	都市社会工学セミナーA, B （必修）	10単位
M2 前期		都市社会工学セミナーA, B （必修）	
M2 後期		都市社会工学セミナーA, B （必修） 修士論文（必修）	8単位 0単位
単位数	22単位以上	8単位以上	30単位以上
5年型（博士後期課程）、3年型（博士後期課程）			
学年	講義科目（コア、Major、Minor、その他）	ORT 科目	単位数
D1 前期	都市社会工学総合セミナーA（必修） 都市社会工学総合実習	都市社会工学 ORT（3年間の通年科目。修了時に学修状況を判断して4単位認定）	2単位
D1 後期	都市社会工学総合セミナーB（必修） 都市社会工学総合実習	都市社会工学 ORT	4単位
D2 前期		都市社会工学 ORT	
D2 後期		都市社会工学 ORT	
D3 前期		都市社会工学 ORT	
D3 後期		都市社会工学 ORT 博士論文（必修）	4単位 0単位
合計	6単位以上	4単位以上	10単位以上

(注意事項)

- 1) 科目標準配当表に掲載されている英語科目の中から4単位以上を修得することとし、いずれを履修するかについては、指導教員と相談して決定すること。修了要件となる科目は英語科目(「都市社会情報論」「自主企画プロジェクト」「キャップストーンプロジェクト」「都市社会工学セミナーA,B」を含む)に限定される。
- 2) 都市社会工学専攻の修士課程では、修了要件とは別に7つの履修分野を定めており、履修分野の修了要件を満たすものは、修了時に分野修了証書を受領することができる。履修分野については、別途、ガイダンス時に配布される資料を参照すること。

社会基盤工学専攻の履修分野について

平成 29 年 4 月 5 日

社会基盤工学専攻では、通常の修了要件とは別に下記の 6 つの分野の修了要件を設ける。通常の履修登録時には分野の申請を行う必要はなく、単独あるいは複数の分野の修了要件を満たす者は、卒業する 1~2 ヶ月前に教務担当教員に申告した上で、卒業時に分野修了証書を受領することができる。

[分野 1] 構造設計技術者・研究者養成分野

(1) 内容：

我が国は地震や台風などの自然災害が多く、かつ多様な自然環境を有している。このような中で、社会基盤として安全で安心、快適な市民生活を支える構造物を造り、活用していくことは容易ではない。このため、省資源で環境負荷が少なく、経済性にも配慮した構造物を、計画、設計、施工、維持管理できる能力を有する人材の養成を目指す。まず、数学・力学や、材料へのミクロな視点を修得する。そのうえで、大規模構造物をも対象として、構造物の性能の評価と向上、入力作用と静的・動的応答、長期にわたる維持・供用等を、ハード・ソフトの両面から計画・実践できる能力の修得を目指す。

(2) 履修することが必要な科目群

必修科目：計 10 単位

連続体力学、構造安定論、材料・構造マネジメント論、地震・ライフライン工学、社会基盤構造工学

選択必修科目（以下の科目の中から 1 科目以上の履修が必要）：計 2 単位以上

構造デザイン、橋梁工学、コンクリート構造工学、構造ダイナミクス、サイスミックシミュレーション、環境材料設計学、社会基盤安全工学、数値流体力学、応用数理解析

合計 12 単位以上

[分野 2] 水工設計技術者・研究者養成分野

(1) 内容：

水域を中心とした社会基盤の整備、維持管理、水防災や水環境に関連する諸問題を解決するために、実践的な技術提案や先端的な技術開発を行う能力を持つ技術者、研究者を養成する。流体の乱流現象や数値流体力学、水文循環機構、山地から河川・海岸における水・土砂移動の物理機構の理解を基礎とし、水工構造物の設計論や水工計画手法を習得して、高度な水工設計や技術開発を実現する能力を養う。

(2) 履修することが必要な科目群

必修科目：計 8 単位

水理乱流力学、水工計画学、河川マネジメント工学、流砂水理学

選択必修科目（以下の科目の中から 4 科目以上の履修が必要）：計 8 単位以上

水文学、開水路の水理学、海岸波動論、水文気象防災学、水資源システム論、流域治水砂防学、沿岸・都市防災工学、流域環境防災学、数値流体力学、水域社会基盤学、応用水文学、環境防災生存科学、流域管理工学

合計 16 単位以上

[分野 3] 地盤設計技術者・研究者養成分野

(1) 内容：

土、岩および流体からなる地盤の工学的諸問題を扱う学理・技術分野である地盤力学、基礎工学に加えて、地盤に関連する広範囲の学問と技術を対象とし、地盤力学の基礎から、調査・設計・施工、防災・環境保全・エネルギー資源の技術研究開発を行い、快適な生活環境の創出・保全および充実した社会活動の営みに必要な社会環境基盤の整備・建設・維持などを担う技術者、研究者を養成する。

(2) 履修することが必要な科目群

選択必修科目（以下の科目の中から6科目以上の履修が必要）：計12単位以上

地盤力学、計算地盤工学、ジオリスクマネジメント、ジオコンストラクション、ジオフロント工学原論、環境地盤工学、地盤防災工学

計12単位以上

[分野 4] 都市設計技術者・研究者養成分野

(1) 内容：

環境と調和する都市空間と都市施設の設計に対して、グローバルな地球環境から地域環境を総合的に把握する方法論を身につけ、精確に情報支援する、さらにそれらを総合化して実践的な設計提案ができる人材を目指す。そのため、自然現象あるいは人間活動に関する諸量の空間的な分布を把握し、その背後にある物理的・社会的メカニズムを解析する方法論、ならびに都市の景観や文化的環境を解明し、それに関わる秩序ある空間編成と施設デザインの技能を習得する。

(2) 履修することが必要な科目群

必修科目：計4単位

リモートセンシングと地理情報システム、景観デザイン論

選択必修科目（以下の科目の中から3科目以上の履修が必要）：計6単位以上

公共財政論、都市社会環境論、人間行動学、交通情報工学、環境デザイン論、リスクマネジメント論、災害リスク管理論、防災情報特論、都市基盤マネジメント論

合計10単位以上

[分野 5] 資源・エネルギー技術者・研究者養成分野

(1) 内容：

社会基盤を支えてきた基礎的な資源・エネルギー要素技術を継承し、計算・実験力学及び理論・応用力学の枠組での統合・展開を通して、資源エネルギーの探査・開発・利用に関連した技術を創成・開発することを目指す。今後社会基盤の持続的発展を担う研究者・技術者教育を重視し、国内外においても通用するレベルの先端的知識および高い応用能力を有する技術者を養成する。そのため、工学基礎の確立に必要な科目群に加え、インターンシップ等の自主企画プロジェクトによる応用能力養成を必須とする。

(2) 履修することが必要な科目群

選択必修科目（以下の科目の中から6科目以上の履修が必要）：計12単位以上

資源開発システム工学、応用数理解析、地殻環境工学、応用弾性学、物理探査の基礎数理、地下空間と地殻物性、探査工学特論、地殻環境計測、地球資源学、社会基盤安全工学

合計12単位以上

[分野6] Study Area of Approaches for Disaster Resilience

(1) 内容：

今後大規模災害の発生が想定される ASEAN（タイ，ベトナム，インドネシア，マレーシア）の 6 大学と連携して，東日本大震災からの復興の過程を踏まえながら強靱な国づくりを担う国際人を育成することを目指す．医工連携・文理融合の視点を加えた減災/復旧/復興リーダー育成を目指す協働教育カリキュラムに基づき，「強靱な国づくり」を支えるために欠かせない国際的に活躍できる人材を育成する．

(2) 履修することが必要な科目群

必修科目： 強靱な国づくりのためのエンジニアリングセミナー， **Disaster and Health Risk Management for Liveable City**：計 4 単位

選択必修科目：学修要覧の科目標準配当表(社会基盤工学専攻(修士課程))に記載された英語科目(◎)の中から 3 科目 以上：計 6 単位以上

合計 10 単位以上

※同分野の履修にあたっては，別途説明会を開催する．

都市社会工学専攻の履修分野について

平成 29 年 4 月 5 日

[分野 1] 公共政策計画・管理分野

(1) 内容：

本プログラムでは、高い生活の質(quality of life)を保証しうる安全かつ快適な情報都市システムの構築に資する、公共政策ならびに都市のマネジメント方策の立案・策定を担う人材の養成を目指す。都市基盤の整備・運用に関わる工学的視点に加えて、情報インフラと都市づくり・都市計画・リスクマネジメント・都市財政等の視点から、都市のあり方を総合的に評価・議論できる多彩かつ柔軟な思考力・企画力を持ち、実社会の多様な場面においてリーダーシップを発揮し得る人材の養成を目指す。

(2) 履修することが必要な科目群

必修科目：公共財政論，都市社会環境論，リスクマネジメント論

計 6 単位

選択必修科目（以下の科目の中から 2 科目以上の履修が必要）：

人間行動学，交通情報工学，リモートセンシングと地理情報システム，景観デザイン論，災害リスク管理論

計 4 単位以上

合計 10 単位以上

[分野 2] 国際プロジェクトマネジメント分野（インフラ開発・エネルギー開発）

(1) 内容：

近年、インフラ構造物開発・エネルギー開発プロジェクトは、国際的な規模での調達プロジェクトへと変貌を遂げつつある。このような背景から、本コースにおいては、インフラ開発およびエネルギー開発に関連する工学的マネジメントにおいて必要となる技術に加え、社会経済的視点を加えた学際的な知識の習得することを目的とする。

(2) 履修することが必要な科目群

必修科目：自主企画プロジェクトもしくはキャップストーンプロジェクト，ジオリスクマネジメント，資源開発システム工学，公共財政論

計 8 単位

選択必修科目（以下の科目の中から 3 科目以上の履修が必要）：

ジオコンストラクション，ジオフロント工学原論，都市基盤マネジメント論，リスクマネジメント論，地球資源学，地殻環境工学

計 6 単位以上

合計 14 単位以上

[分野 3] 都市水・地盤環境マネジメント分野

(1) 内容：

水と地盤を基本構成要素とする流域の上に都市は存在し、その中で人々の営みが行われている。このような観点から、流域と都市の中での人と自然との共生や人の潜在能力を発展させ発揮することができる都市を目指す都市水・地盤環境プランナーを養成するプログラム。水だけでなく、互いに密接に関わる水と地盤の相互作用挙動、及びその中の物質移動、化学変化や変形挙動の解析法を主な要素技術として、環境情報に基づく都市・流域相変化の分析と目標の設定、水循環・水供給や治水・利水・環境の視点からみた流域計画の実際、都市の水・地盤環境と防災計画の実際、地下空間計画・施工技術など広範な内容を習得する。

(2) 履修することが必要な科目群

必修科目 : 河川マネジメント工学, ジオコンストラクション, 水工計画学, 水文気象防災学, 環境地盤工学
計 10 単位

選択必修科目 (以下の科目の中から2科目以上の履修が必要):

水資源システム論, 海岸波動論, 流域治水砂防学, 沿岸・都市防災工学, 流域環境防災学, 地盤防災工学, 都市社会環境論

計 4 単位以上

合計 14 単位以上

[分野4] サイスミックデザイン・マネジメント分野

(1) 内容:

高度情報社会における災害リスクマネジメントを行うためには、長期の供用期間における耐震技術に代表されるリスクコントロールに関する知識のみならず、経済的、環境負荷等を含む社会的問題をも包含したトータルな視点からのアプローチが不可欠である。本コースでは、主に地震災害を対象として、地盤、構造物、ライフラインの動的挙動や、環境に配慮した材料設計をも考慮した最新の耐震技術、耐震設計を習得するとともにリスクファイナンス技術を統合した総合マネジメント技術を習得する。

(2) 履修することが必要な科目群

必修科目 : 構造ダイナミクス, 地震・ライフライン工学, サイスミックシミュレーション, 環境材料設計学, 自主企画プロジェクトもしくはキャップストーンプロジェクト
計 10 単位

選択必修科目 (以下の科目の中から2科目以上の履修が必要):

構造デザイン, リスクマネジメント論, 連続体力学, 材料・構造マネジメント論, ジオリスクマネジメント, ジオコンストラクション, 災害リスク管理論, 防災情報特論, 危機管理特論

計 4 単位以上

合計 14 単位以上

[分野5] 都市交通政策分野 (都市地域計画、都市交通政策論)

(1) 内容:

安全、快適で活力ある都市システムの構築に不可欠な都市政策・交通政策の立案・実施を担う人材の育成を目指す。これからの都市は、効率性・信頼性・経済性等の視点に加えて、環境の視点、人間重視の視点から構築されていく必要がある。新しい視点からの都市政策・交通政策の理念と手法を学び、科学的・論理的に議論・計画できる能力の涵養を目指す。

(2) 履修することが必要な科目群

必修科目 : 都市社会環境論, 人間行動学

計 4 単位

選択必修科目 (以下の科目の中から4単位以上の履修が必要):

公共財政論, 景観デザイン論, 交通情報工学, 都市交通政策フロンティア講座 (交通政策研究ユニット), 低炭素都市圏政策論 (交通政策研究ユニット), 都市交通政策マネジメント (交通政策研究ユニット)

(交通政策研究ユニットの各講義は、1科目1単位であるので注意すること)

計 4 単位以上

合計 10 単位以上

[分野6] 資源・エネルギー技術者・研究者養成分野

(1) 内容:

社会基盤を支えてきた基礎的な資源・エネルギー要素技術を継承し、計算・実験力学及び理論・応用力学の枠組での統合・展開を通して、資源エネルギーの探査・開発・利用に関連した技術を創成・開発することを目指す。今後社会基盤の持続的発展を担う研究者・技術者教育を重視し、国内外においても通用するレベルの先端知識および高い応用能力を有する技術者を養成する。そのため、工学基礎の確立に必要な科目群に加え、インターンシップ等の自主企画プロジェクトによる応用能力養成を必須とする。

(2) 履修することが必要な科目群

選択必修科目 (以下の科目の中から6科目以上の履修が必要):

資源開発システム工学, 応用数理解析, 地殻環境工学, 応用弾性学, 物理探査の基礎数理,
地下空間と地殻物性, 探査工学特論, 地殻環境計測, 地球資源学

計 12 単位以上

[分野7] Study Area of Approaches for Disaster Resilience

(1) 内容:

今後大規模災害の発生が想定される ASEAN (タイ, ベトナム, インドネシア, マレーシア) の 6 大学と連携して, 東日本大震災からの復興の過程を踏まえながら強靱な国づくりを担う国際人を育成することを目指す。医工連携・文理融合の視点を加えた減災/復旧/復興リーダー育成を目指す協働教育カリキュラムに基づき, 「強靱な国づくり」を支えるために欠かせない国際的に活躍できる人材を育成する。

(2) 履修することが必要な科目群

必修科目: 強靱な国づくりのためのエンジニアリングセミナー, **Disaster and Health Risk Management for Liveable City**

計 4 単位

選択必修科目: 学修要覧の科目標準配当表(都市社会工学専攻(修士課程))に記載された英語科目(◎)の中から 3 科目 以上

計 6 単位以上

合計 10 単位以上

※同分野の履修にあたっては, 別途説明会を開催する。

社会基盤工学セミナーA,B (社会基盤工学専攻の学生対象)
都市社会工学セミナーA,B (都市社会工学専攻の学生対象)

[科目内容説明]

社会基盤工学セミナーA/都市社会工学セミナーA

社会基盤工学/都市社会工学に関わる国内外における最先端の研究について、その動向と内容を講述するとともに、具体的な特定の課題について、研究計画の立て方、情報の収集、研究の進め方とそのまとめ方について個別に指導を行う。

社会基盤工学セミナーB/都市社会工学セミナーB

社会基盤工学/都市社会工学に関連する具体的な特定の課題について、情報収集および研究を実践し、その成果を纏めるとともに、国内外で開催される学会での発表と質疑、研究室ゼミでの発表、講習会への参加などを通して、研究成果の発表方法について個別に指導を行う。

自己評価には下記のポイント表を使用し、修士1回~2回生の2年間で計10ポイント以上取得すること。ただし毎年、3ポイント以上取得すること。なお2年間で越えて修士課程に在籍する学生は、本条件の達成可否について総務教務に相談すること。ポートフォリオにポイント取得状況等を記入し、毎セメスター終了時に提出(最終的には通常、修士論文提出時にあわせて提出)。具体的な提出時期は別途指示する。

- | |
|---|
| <p>1ポイント：研究室ゼミで発表(指導教員がポイントとして認めたものに限る)、土木学会年次講演会などで口頭発表</p> <p>1~5ポイント：学協会主催の講習会などに出席(認定書を取得すること。)ポイント数は認定の難易度に応じて指導教員が決める。</p> <p>3ポイント：国際会議での英語の発表(論文が査読ありの場合は下記に準じる。)</p> <p>5~10ポイント：査読つき論文(土木学会論文集、ASCE Journalなど)に第一著者あるいは共著者として掲載またはアクセプト(ポイント数は論文への貢献度や掲載誌に応じて、指導教員が決める。)</p> <p>その他：自主研究や研修(ポイント数は指導教員が決める。)ただし、自主企画プロジェクト、キャップストーン・プロジェクト、社会基盤工学インターンシップ、長期インターンシップ、社会基盤工学実習、都市社会工学実習など他の科目に関係する活動は認めない。</p> |
|---|

※ 成績システムの都合上、履修中の場合に「不受験」表示になりますが、教務サイトで履修確認を行っています。毎年、必ず科目登録を行ってください。

自主企画プロジェクト（社会基盤工学専攻、都市社会工学専攻）

1. 目的

受講生の自主性、企画力、創造性を引き出すことを目的とし、企画、計画から実施に至るまで、学生が目標を定めて自主的にプロジェクトを推進し成果をまとめる科目である。具体的には、企業でのインターンシップ活動、国内外の大学や企業における研修活動、市民との共同プロジェクトの企画・運営、修士論文の研究テーマとは異なる研究活動などについて、その目的、方法、成果の見通し等、周到な計画を立てた上で実施し、報告書を作成する。

2. 取りまとめ教員

村田 澄彦（都市社会工学専攻） email: murata.sumihiko.6v@kyoto-u.ac.jp, Phone: 075-383-3204

市川 温（社会基盤工学専攻） email: ichikawa@hywr.kuciv.kyoto-u.ac.jp, Phone: 075-383-3361

3. 主な対象

社会基盤工学専攻および都市社会工学専攻の修士1回生

4. 認定単位

社会基盤工学専攻：コア科目 通年 必修2単位

都市社会工学専攻：コア科目 通年 選択必修2単位

5. 実施方法

(1) ガイダンス：4月13日(木)13:00～ 桂 C1-173 室

★履修者は必ず KULASIS に登録すること、その際メールアドレスを必ず登録・確認すること。とりまとめ教員とのやりとり、履修者に向けての伝達事項など全て KULASIS を通じて実施する。定期的に確認すること。なお、メールアドレスを変更した際は必ず KULASIS 内でもアドレスを変更すること。

(2) 企画案の提出：6月2日(金)締切り。

★企画案フォーマットを KULASIS 授業資料に掲載するのでそれを用いること。

以下が記入すべき主要項目である。

- プロジェクトのタイトル（日本語・英語）
- 氏名、研究室名、E-mail アドレス
- アドバイザー教員名（アドバイザー教員は原則として指導教員、あるいは実施学生と同じ専攻に所属する教員（教授、准教授、講師）とする。）
- 要旨（英語 200 words）、目的、方法（計画から実施まで具体的に）、成果の見通し、公表計画
企画案作成後、アドバイザー教員のサインまたは印鑑をもらい、C クラスター教務掛に提出すること。また、同じ内容のエクセルファイルを、以下のアドレスにも必ずメールで送付すること。
提出用アドレス：jisyukikaku@adm.t.kyoto-u.ac.jp、メールの件名は「自主企画 氏名 学生番号」とすること。またファイル名も「自主企画 氏名 学生番号.xlsx」などとする。

(3) 進捗状況の報告：10月6日(金)締切り。

進捗状況報告書を A4 判 1 枚程度に記し、アドバイザー教員のサインまたは印鑑をもらい、C クラスター事務室に提出すること。

(4) 報告書の提出：2018年1月12日(金)締切り。

実習成果に関するレポートを作成し C クラスター事務室に提出するとともに、ワードファイルを以下のアドレスにメールで送付すること。報告書は、土木学会論文集のフォーマット (http://committees.jsce.or.jp/jjsce/j_post 参照) に従い、10 ページ程度とする。

提出用アドレス：jisyukikaku@adm.t.kyoto-u.ac.jp、メールの件名は「自主企画 氏名 学生番号」とすること。またアドバイザー教員の承認を得てから報告書を提出すること。ファイル名は「自主企画 氏名 学生番号.docx」などとする。

6. 留意点

- グループを組んでプロジェクトを企画する場合、グループの人数は5名を上限とする。
- インターンシップ活動については、社会基盤工学インターンシップ、長期インターンシップとともに、講義とは別に2017年12月中旬以降に発表の場を設ける。
- 自分の発表日の講義（発表会・3時間を予定）にはフルで出席すること。

社会基盤工学インターンシップ（社会基盤工学専攻）
長期インターンシップ（都市社会工学専攻）

1. 目的

中央省庁・地方自治体および民間企業などの学外各機関における長期のインターンシップ（3ヶ月以上）を通して、社会基盤工学および都市社会工学の各分野における実践的技術の修得を行う。また、インターンシップ期間における特定課題への取組みを通じて、課題の発見と解決手法、成果の取りまとめ手法を修得する。さらに、インターンシップ成果に関する学内発表会において、プレゼンテーション手法を修得する。

2. 主な担当教員

村田 澄彦（都市社会工学専攻） email: murata.sumihiko.6v@kyoto-u.ac.jp, Phone: 075-383-3204
市川 温（社会基盤工学専攻） email: ichikawa@hywr.kuciv.kyoto-u.ac.jp, Phone: 075-383-3361

3. 主な対象

社会基盤工学専攻および都市社会工学専攻の修士1回生（博士後期課程学生も受講可）

4. 単位認定

ORT科目 集中 選択4単位

5. 実施条件

- 8月～12月中旬までの通算3ヶ月以上とする。ただし、連続日である必要はない。
- 大学側からの経費負担なし。学生に対する報酬支給は、受け入れ機関の規定に従う。
- 旅費（特に遠隔地の場合）は受け入れ機関・指導教員・学生本人の3者で協議すること。
- 参加者は傷害保険（学研災および学研賠）に加入しておくこと。

6. 実施方法

- (1) 履修希望者に対するガイダンス（希望者は必ず出席すること）
4月13日(木) 14:00より 桂 C1-173室
- (2) 希望調査と実習先の決定（4～6月）
実習先の選定方法は、イ）学生本人による調整、ロ）指導教員による調整、ハ）実習担当教員による調整のいずれかを選択する。上記のハ）の場合には、実習担当教員は実習希望者の情報を受入可能性のある関係各機関に送付して実習先の調整を行う。
- (3) 事前準備（4～6月）
実習先決定後、該当学生は受入先と連絡を取り、①実習課題の最終決定、②実習計画書の作成（実習方法（実験／データ分析／現地調査／プログラミング／設計など）、実習時期・想定期間、受入条件など）を行うとともに、③実習課題に必要な事前準備を十分に行う。
- (4) 実習計画書の提出（6月30日(金)）
実習計画書を指導教員に報告し、実習計画書に指導教員の承認のサインを得た後、C クラスター事務室教務掛に提出すること。
- (5) 実習実施（8～12月中旬）
実習計画書に従って実習を実施する。
- (6) 成果取りまとめ及び発表（12月中旬～1月）
 - 実習成果に関する報告書を作成し、C クラスター事務室教務掛に提出すること。報告書は、土木学会論文集のフォーマット（http://committees.jsce.or.jp/jjsce/j_post 参照）に従って作成し、20ページ程度とする。締め切りは2018年1月12日(金)とする。
 - 発表会において、実習成果に関するプレゼンテーションを行う（12月中旬以降に予定）。
 - 自分の発表日の講義（発表会・3時間を予定）にはフルで出席すること。

7. 留意点

- インターシップ実施期間は、他の科目を原則的に履修できないことに注意すること。

平成 29 年度 都市社会工学専攻

「キャップストーンプロジェクト」についての案内

1. 概要（シラバスより抜粋）

学部および修士で学んできた基礎的素養を総合的に活かして、都市社会における様々な課題に関するプロジェクトを企画・立案する。実際の問題を想定し、情報の収集と分析、それに基づくプロジェクトの実践と効果を評価する。一連の成果をまとめてレポートを作成し、プレゼンテーションを行う。

2. 留意事項

・履修希望者は、ガイダンスを 4 月 13 日（木）10：30～12：00、C1-173 号室にて行うので出席すること。

・履修希望者は、以下の電子メールで肥後（桂 C1-2-211 号室，内線 15-3305）まで連絡してください。

送信先： higo.yohsuke.5z@kyoto-u.ac.jp

提出期限：4 月 17 日（月）17 時（厳守）

件 名：capstone17_氏名

内 容：氏名，所属研究室名，

希望テーマ（第 1 希望から第 5 希望までの課題番号），

e-mail アドレス

※自分の所属研究室のテーマは選択できません。

※短期間でテーマの割当を調整しますので，提出期限は必ず守って下さい。

・テーマの決定（研究室への配属）

専攻 Web に掲示：4 月 21 日（金）に確認のこと。

確定していない人：4 月 27 日（木）10：30 に桂 C1-173 号室に集合。

確定した人：各自で担当教員に連絡を取る。

・最終成果（研究室ごとに）

1 月（予定）に最終発表会を実施。

最終提出レポート：A4 で 10 ページ程度（土木学会論文集フォーマット）。

修士課程学生のポートフォリオの提出方法（平成 29 年度入学者用）

- (1) 専攻 web から該当するポートフォリオ記入用ファイル(MS-Word)をダウンロードする。
→<http://www.um.t.kyoto-u.ac.jp/ja/oncampus/kyomu2017>
- (2) ダウンロードしたポートフォリオ記入用ファイルの記入指定箇所（*下記参照）に必要な事項を記入して印刷する。
- (3) 社会基盤工学専攻の場合は主指導教員、都市社会工学専攻の場合は主指導教員と副指導教員 2 名に印刷したポートフォリオを提出し、署名欄にサインをいただく。
- (4) 印刷したポートフォリオの該当ページをスキャナー等でまとめて一つの PDF ファイルにして 下記のアドレスに添付ファイルにて電子提出する。ただし、第 2 学年・第 4 セメスター終了時には原本を C クラスター事務室に提出する。

ポートフォリオ提出先メールアドレス

kyomu-ceum@adm.t.kyoto-u.ac.jp

（注意 1）送信の際の件名は次の通りにすること。

学生証番号（10 ケタ半角）＋ 専攻名（社会基盤→CE or 都市社会→UM, 半角入力）＋氏名

（例） 1234567890UM 山田太郎

（注意 2）指導教員（都市社会の学生は副指導教員にも）宛にも CC 送信すること。

（注意 3）ファイルサイズを可能な限り小さくすること。

（注意 4）ファイル名は“学生番号（10 桁半角）+氏名.pdf” とすること。

（例）123456890 山田太郎.pdf

- (5) 印刷したポートフォリオの原本については修了時まで各自大切に保管する（第 2 学年・第 4 セメスター終了時に原本をすべて提出するため）。

* 修士課程ポートフォリオの記入指定箇所

- ・ 入学時
修士課程ポートフォリオ 1-3 ページ
提出期限：2017 年 4 月 17 日（記入指定箇所ページのコピーを提出）
- ・ 第 1 学年・第 1 セメスター終了時
修士課程ポートフォリオ 4-5 ページ
提出期限：2017 年 9 月末予定（記入指定箇所のコピーを提出）
- ・ 第 1 学年・第 2 セメスター終了時
修士課程ポートフォリオ 6-7 ページ
提出期限：2018 年 4 月末予定（記入指定箇所のコピーを提出）
- ・ 第 2 学年・第 3 セメスター終了時
修士課程ポートフォリオ 8-9 ページ
提出期限：2018 年 9 月末予定（記入指定箇所のコピーを提出）
- ・ 第 2 学年・第 4 セメスター終了時
修士課程ポートフォリオ 10-12 ページ
提出期限：2019 年 1 月末予定（原本 1-12 ページをすべて提出）

[2017年4月提出用] 指導教員の署名を取得後、1-3 ページをまとめて PDF にして指定アドレスに電子提出する。原本は大切に保管すること。

京都大学工学研究科 社会基盤工学専攻・都市社会工学専攻
ポートフォリオ（修士課程） 2017年4月入学者用

Academic Portfolio (for Master Course, Dept. of Civil and Earth Resources Eng. and Dept. of Urban Management)

			2017年4月入学 Entered Apr. 2017
専攻名 Department	学生番号 Student ID	コース Course 高度・融合(分野) Advanced or Interdisciplinary(field)	氏名 Name
社会基盤工学専攻	1234567890		山田 太郎

所属分野 Laboratory	主指導教員 Supervisor	副指導教員(1)* Sub-supervisor 1	副指導教員(2)* Sub-supervisor 2
〇〇〇〇分野	〇〇〇〇	△△△△	□□□□
教育プログラムの選択 (Major 履修科目の系) Division of education program for major subjects			
(例) 水工系教育プログラム			

* 社会基盤工学専攻所属の修士課程学生は記入不要。No need to fill in for master course students at Dept. of Civil and Earth Resources Eng.

Current address

現住所	(例) 〇〇市〇〇町〇〇〇	TEL(固定, fixed)	000-000-0000
		TEL(携帯, cp)	000-000-0000
		E-mail	(全学メールアドレスを記入)

		TEL(固定, fixed)	
		TEL(携帯, cp)	
		E-mail	

		TEL(固定, fixed)	
		TEL(携帯, cp)	
		E-mail	

Hometown address

帰省先	(例) 〇〇市〇〇町〇〇〇	TEL(1)	000-000-0000
		FAX or TEL(2)	
		E-mail	

		TEL(1)	
		FAX or TEL(2)	
		E-mail	

[2017年4月提出用] 指導教員の署名を取得後、1-3 ページをまとめて PDF にして指定アドレスに電子提出する。原本は大切に保管すること。

氏名(Name): 山田 太郎

学習目標 Your goals

所属専攻、コースにおいて修了に必要な単位 Credits required for completion
(大学院学習要覧を参考にして記入)

科目区分 Subject category	単位数 Credits	
	修士課程 Master Program	博士後期課程 Ph.D. Program
コア科目 Core	2 単位以上	単位以上
Major 科目	10 単位以上	単位以上
Minor 科目	8 単位以上	単位以上
演習・ORT・インターンシップ科目	単位以上	単位以上
その他の科目 Others	単位以上	単位以上
合計 Total	30 単位以上	単位以上

資格・公的試験の目標 Your plans on acquisition of professional licenses/qualifications

資格等の名前 Category	取得予定年月 Planned date	実際の取得年月 Actual date	備考 Remark

大学院在籍中の勉学目標 Your study goals in Master (and Ph.D.) program

(例)
査読付論文集を執筆し、掲載されることを目指す。(〇〇工学論文集など)
国際会議において口頭発表を行う。
土木学会全国大会で優秀講演者賞の受賞を目指す。

履修コースの修得目標 Your study goals to obtain the Courses designated by the department

(例) 水工系の履修コースの関連科目の単位を修得し、コース認定されることを目標とする。

その他の目標 Other goals

(例) TOEIC800点以上を獲得。

[2017年4月提出用] 指導教員の署名を取得後、1-3 ページをまとめて PDF にして指定アドレスに電子提出する。原本は大切に保管すること。

氏名(Name): 山田 太郎

テーラーメイド学習計画 Study/Research Plan

一般科目 Course works (単位 credits)

年・セメスター Year/Semester		コア科目 Core	Major 科目	Minor 科目	演習 ORT 等	その他科目 Others
1年 1 st year	1	2 単位	24 単位	単位	8 単位	単位
	2	単位	単位	単位	単位	単位
2年 2 nd year	3	単位	単位	単位	単位	単位
	4	単位	単位	単位	単位	単位
小 計 Subtotal		2 単位	28 単位	単位	8 単位	単位
研究論文(修士) Master dissertation		必修 Compulsory				
3年 3 rd year	5	単位	単位	単位	単位	単位
	6	単位	単位	単位	単位	単位
4年 4 th year	7	単位	単位	単位	単位	単位
	8	単位	単位	単位	単位	単位
5年 5 th year	9	単位	単位	単位	単位	単位
	10	単位	単位	単位	単位	単位
小 計 Subtotal		単位	単位	単位	単位	単位
合 計 Total		単位	単位	単位	単位	単位
研究論文(博士) Doctoral dissertation		必修 Compulsory				

特別実験及び演習(修士論文) Master dissertation

研究目標(テーマ・目的等) Purpose/Plan	(例) 開水路ワンド流れの基礎的研究 河床高自動計測システムを開発する。
-------------------------------	--

インターシップ・海外研修等の計画 Internship plan

(例) ○○株式会社の夏季インターンシップに参加する。

指導教員の署名欄 Approval from your supervisors (to be signed by your supervisors)

主指導教員 Supervisor	副指導教員 Sub-supervisor 1	副指導教員 Sub-supervisor 2
○○○○	△△△△	□□□□

[2017年9月末提出用] 指導教員の署名を取得後、4-5 ページをまとめて PDF にして指定アドレスに電子提出。原本は大切に保管すること。

氏名(Name) : 山田 太郎

特別実験及び演習(修士論文) Dissertation study

研究題目 Title		
研究経過 Progress		
目標到達度と 今後の課題 Goals and Challenges		
社会基盤工学 セミナーA,B / 都市社会工学 セミナーA,B 活動内容と 獲得ポイント Points and activities for Seminar on Infrastructure Eng. A,B / Urban Management A, B		今期の取得ポイント Points acquired in this semester
		積算取得ポイント Total points

指導教員の署名欄 Approval from your supervisors (to be signed by your supervisors)

主指導教員 Supervisor	副指導教員 Sub-supervisor 1	副指導教員 Sub-supervisor 2

[2018年4月提出用] 指導教員の署名を取得後、6-7ページをまとめてPDFにして指定アドレスに電子提出。原本は大切に保管すること。

氏名(Name) : 山田 太郎

特別実験及び演習(修士論文) Dissertation study

研究題目 Title		
研究経過 Progress		
目標到達度と 今後の課題 Goals and Challenges		
社会基盤工学 セミナーA,B / 都市社会工学 セミナーA,B 活動内容と 獲得ポイント Points and activities for Seminar on Infrastructure Eng. A,B / Urban Management A, B		今期の取得ポイント Points acquired in this semester
		積算取得ポイント Total points

指導教員の署名欄 Approval from your supervisors (to be signed by your supervisors)

主指導教員 Supervisor	副指導教員 Sub-supervisor 1	副指導教員 Sub-supervisor 2

[2018年9月末提出用] 指導教員の署名を取得後、8-9 ページをまとめて PDF にして指定アドレスに電子提出。原本は大切に保管すること。

氏名(Name) : 山田 太郎

特別実験及び演習(修士論文) Dissertation study

研究題目 Title		
研究経過 Progress		
目標到達度と 今後の課題 Goals and Challenges		
社会基盤工学 セミナーA,B / 都市社会工学 セミナーA,B 活動内容と 獲得ポイント Points and activities for Seminar on Infrastructure Eng. A,B / Urban Management A, B		今期の取得ポイント Points acquired in this semester
		積算取得ポイント Total points

指導教員の署名欄 Approval from your supervisors (to be signed by your supervisors)

主指導教員 Supervisor	副指導教員 Sub-supervisor 1	副指導教員 Sub-supervisor 2

[2019年1月末提出用] 指導教員の署名を取得後、1-12 ページ全ての原本をホチキス止めてCクラスター事務室教務第一掛に提出。

氏名(Name): 山田 太郎

特別実験及び演習(修士論文) Dissertation study

研究題目 Title		
研究経過 Progress		
目標到達度と 今後の課題 Goals and Challenges		
社会基盤工学 セミナーA,B / 都市社会工学 セミナーA,B 活動内容と 獲得ポイント Points and activities for Seminar on Infrastructure Eng. A,B / Urban Management A, B		今期の取得ポイント Points acquired in this semester
		積算取得ポイント Total points

指導教員の署名欄 Approval from your supervisors (to be signed by your supervisors)

主指導教員 Supervisor	副指導教員 Sub-supervisor 1	副指導教員 Sub-supervisor 2

[2019年1月末提出用] 指導教員の署名を取得後、1-12 ページ全ての原本をホチキス止めてCクラスター事務室教務第一掛に提出。

氏名(Name): 山田 太郎

履修コースの修了の申請

Application to obtain the Course Certificate (to be submitted on February in the fourth semester)

履修コース名 Course name:

履修科目名 Subject	科目区分 Subject category (Core, Major, Minor, ORT, Others)	単位 Credit	合否 Pass/Fail

履修コース名 Course name:

履修科目名 Subject	科目区分 Subject category (Core, Major, Minor, ORT, Others)	単位 Credit	合否 Pass/Fail

レポート試験の取り扱いについて

近年のインターネット技術の普及により、従来以上に、全世界のデータ（論文・報告書を含む）に容易にアクセスすることが可能となってきた。従来、定期試験におけるレポート試験において、上記のような資料を用いて答案を作成した際の取り扱いについては明確な規定がなされていなかった。

そこで、今後の取り扱いを下記のように行うので、各学生においては十分留意すること。

1. 主旨

レポート試験における参考資料の取り扱いの明確化。不正行為の防止。

2. 注意事項

インターネット等から入手した資料を参考にレポート試験の答案を作成する場合には、下記の注意事項に留意すること。

- ① レポート試験とは、教員より与えられた課題に対して、自己の考えるところを文章・図表を用いて解答するものであり、他人の著作物の単なる引用のみで構成されるものは答案とは認められない
- ② 自己の考えを記述するにあたり、各種の既存の情報を参考にすることは可能であるが、既存情報としてインターネット等から入手した資料（論文・報告書・図表・データなど）を引用（参考資料として、その一部を記載）することは、レポート課題に真に必要なものに留める
- ③ 必要により引用した場合には、参考文献として出典を本文中および末尾に明記する
- ④ 参考文献としての明記がないもの、あるいは明記した場合においても原文とほぼ同等の文章・図表のみで構成され、自己の考えなどの記述が全く見られないものは、故意に行ったか否かにかかわらず不正行為（工学部試験内規第 16 条）とみなされることがある

以上

平成29年3月24日

地球系3専攻 修士課程進学予定の皆さまへ

- ◇履修コース「Study Area on Approaches for Disaster Resilience」では、気候変動の強靱な国づくりを支える人材を育成します。
- ◇ASEAN各国の学生とともに、自然災害リスクの減災、災害からの復旧・復興について学ぶコースです。
- ◇8月に日本とタイで、講義とフィールドトリップが実施されます。
- ◇定員：10名程度

履修コースの説明会を開催します

ぜひご参加ください

日時：平成29年4月5日（水）午後3時30分～

場所：桂キャンパス CI棟-173室

- ◇問い合わせ先
大学の世界展開力強化事業推進室
contact@drc.t.kyoto-u.ac.jp

地球系大学院M1・地球工B4・B3の諸君へ 1

- 国家公務員は国際社会の中で日本を動かす原動力
- 自分の力を試してみませんか？
- 多くの先輩が国土交通省など中央官庁(霞ヶ関)で活躍
- 国家公務員になるには、資格試験としての国家公務員試験に合格することが必要
- M1までで合格すると就職活動が断然楽 (M2ではかなり厳しい)
- 国家公務員試験合格は履歴書(資格)に書ける
- 不明な点は、下記まで

国家公務員ゼミ担当教員：角，河野，田中(茂)，田中(宏)
 国家公務員ゼミ担当学生：

長崎(八木研)，山田(藤井研)，小林(寶研)

(参考)：国土交通白書 (<http://www.mlit.go.jp/statistics/file000004.html>)

東日本大震災の記録—国土交通省の災害対応—

<http://www.mlit.go.jp/common/000208803.pdf>

東日本大震災 語られなかった国交省の記録—ミッションは「NOと言わない」(道下弘子, JDC出版(2012/07))
 前へ!—東日本大震災と戦った無名戦士たちの記録(麻生 幾, 新潮社(2011/08)) など

国家公務員試験受験方法

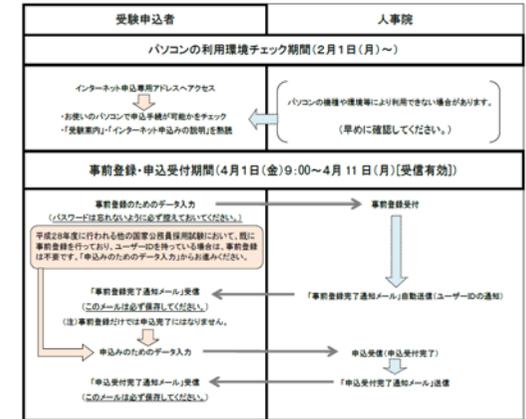
(各自で個別に申し込む)

- 願書提出：インターネット 2017年4月 第1週

[<http://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.htm>] 人事院・採用で検索

(注) 事前登録と申込みの2段階になっており、申込みまでを行うこと

○インターネット申込みの流れ



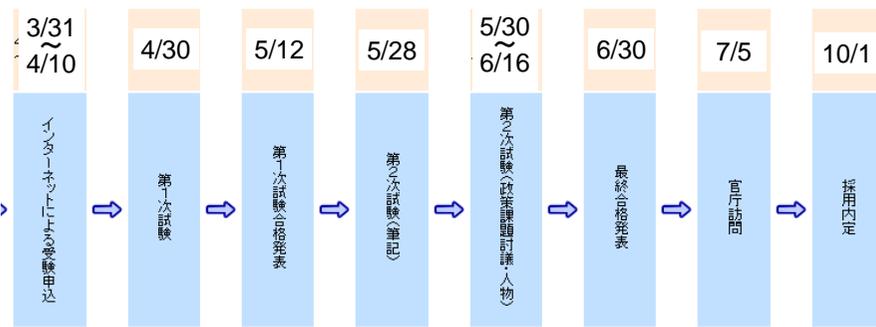
- 2次試験対策

5月15日(月)に実施
 (12:10から桂192室)

質問事項などがあれば下記まで
sumi.tetsuya.2s@kyoto-u.ac.jp

平成29年度試験のスケジュール 3

新規受験者のスケジュール



(参考) 既合格者(前年度まで合格)のスケジュール
 (主に大学院生(M1, M2))

6/1(木)官庁訪問スタート, 6/6(火)内々定

英語試験の活用

TOEFL, TOEIC, IELTS, 英検の得点により、15-25点を加算(総得点の5%程度)

活用する英語試験
 TOEFL(iBT)、TOEIC、IELTS、実用英語技能検定(英検)の4種類

活用方法
 求めるスコア等と加算点

	TOEFL (iBT)	TOEIC	IELTS	英検
15点加算	65以上	600以上	5.5以上	—
25点加算	80以上	730以上	6.5以上	準1級以上

英語試験のスコア等を有する受験者には、最終合格者決定の際に、スコア等に応じて、総得点に15点又は25点を加算する

※1 平成25年度総合職試験における総得点は、区分により異なるが、最高点は672~838点、合格最低点は492~566点となっており、25点の加算は、合否ライン付近の者にとって総得点の概ね5%程度となる

※2 基礎能力試験における英文理解の出題は、引き続き行う予定

スコア等の有効期間
 試験実施年度の4月1日から遡って5年前の日以後に受験したスコア等を有効とする(第2次試験の際に確認することを予定)

国家公務員試験の概要

5

- 人事院が実施（合格≠採用）
<http://www.jinji.go.jp/saiyo/shiken-saiyo.htm>
- 総合職(中央幹部候補), 一般職(地方中堅候補)試験
- 受験資格 (院卒者(30歳未満, 大学院修了・見込み), 大卒者(21歳以上30歳未満, 大学卒業・見込み))
 大卒者(昭和62年4月2日～平成8年4月1日生まれの者)
- 受験地(1次(京都・大阪・神戸), 2次(大阪))
- 受験費用(無料)

H29年度試験日程

受付期間	IT:3月31日(金)9:00～4月10日(月)受信有効		
試験日	第1次試験		第2次試験
	4月30日(日)	筆記	5月28日(日)
		人物	5月30日～6月16日
合格発表日	5月12日(金)	6月30日(金)	

- 合格すると
 - 人事院が合格者リストを公表
 - 各省庁が合格者リストの中から採用者を決定
採用面接による(官庁訪問)
 - 合格者リストは3年間有効(B4合格 → M2就職有効)

総合職試験種目・試験の方法

6

試験	試験種目	解答時間	配点比率	内容
第1次試験 5	基礎能力試験 (多岐選択式)	院卒者30題 (2時間30分) 大卒者40題 (3時間)	2/15	公務員として必要な基礎的な能力(知能及び知識)についての筆記試験 <u>院卒者(知能分野4, 知識分野6)</u> <u>大卒者(知能分野7, 知識分野13)</u>
	専門試験 (多岐選択式)	3時間30分 (40題)	3/15	各試験の区分に応じた必要な専門的知識などについての筆記試験(多岐選択式:基礎的能力, 記述式:思考力・応用力)
第2次試験 10	専門試験 (記述式)	3時間30分 (2題)	5/15	
	政策課題討議 政策論文	1時間30分 2時間(1題)	2/15	<u>院卒者(政策課題討議)</u> , <u>6人一組(レジュメ作成個別発表, G討論, 討論を踏まえた最終コメント)</u> <u>大卒者(政策論文)</u> <u>政策の企画立案に必要な能力, その他総合的な判断力・思考力(英文あり)</u>
	人物試験	20分/人	3/15	人柄, 対人的能力などについての個別面接

二次重視, 専門記述・人物重視, 総合試験(論文)が討議・論文に

試験問題

7

- 1次試験
 - 基礎能力試験(多岐選択式):
 - 院卒者: 知能分野24題(文章理解8, 判断・数的推理16)
知識分野6題(自然・人文・社会6)
 - 大卒者: 知能分野27題(文章理解11, 判断・数的推理16)
知識分野13題(自然・人文・社会13)
 - 専門試験(多岐選択式)
 - 工学基礎(20題必須)
 - 土木分野専門問題(20題)
 - 工学全分野(29科目145題)から4～6科目20題選択
 土木系(1.技術論, 9.構造力学・土木材料・土木施工, 10.土質力学・水理学, 11.環境工学・衛生工学, 21.土木計画, 23.建築史・都市計画)
- 2次試験専門問題(記述式)
 - 土木分野専門問題(2科目から各1題、計2題を選択)
 - 工学全分野(29科目)から(2科目から各1題、計2題を選択)
 土木系(18.構造力学①, 19.土質力学①, 20.水理学①, 21.土木計画③, 22.環境工学・衛生工学②)

(注)○数字は出題数, ただし, 21と22は同時に選択できない

工学区分の合格者実績

8

	H25 (大卒)	H25 (院卒)	H26 (大卒)	H26 (院卒)	H27 (大卒)	H27 (院卒)	H28 (大卒)	H28 (院卒)
受験者数	1,870 (213)	764 (75)	1,975 (248)	758 (95)	2,022 (272)	736 (77)	2,105 (308)	706 (98)
1次合格者	628 (57)	276 (19)	589 (55)	294 (26)	560 (71)	337 (26)	490 (60)	354 (44)
2次合格者	334 (35)	147 (13)	295 (29)	154 (17)	265 (37)	183 (14)	246 (34)	186 (29)

(注)()内は女性数で内数

京都大学技術士会 第10回「技術士を目指そう」説明会

京都大学技術士会 第10回「技術士を目指そう」説明会を以下のとおり開催します。

開催日 2017年4月14日 金曜日

時間 18時15分～20時15分

開催地 京都大学桂キャンパス 桂ホール

対象 技術士資格に関心のある京都大学の学生、院生、卒業生、教職員

定員 70名

詳細等

技術士とは、科学技術に関する高等の専門的応用能力を必要とする事項についての計画、研究、設計、分析、試験、評価又はこれらに関する指導の業務を行う者として、技術士法に定められた技術者を指します。技術士になるには、文部科学省所轄の国家試験を受験して、合格しなければなりません。

この説明会では、技術士を目指す方々のために技術士制度や試験制度の説明を行うとともに、実際に技術士として活躍している卒業生等による体験談紹介や相談会を行います。

技術士資格に関心をお持ちの皆さんの参加をお待ちしております。

参加費

無料

申し込み 次の項目を以下の問い合わせ先に、E-mailにてご連絡ください。

- ※1 メールの件名に【説明会申込み】と記載してください。
 - ※2 受付後、確認メールを送信しますので、当日持参ください。
 - ※3 会場・資料の準備の都合上、事前の申込みをお願いします。
1. 氏名（ふりがな）：
 2. 所属（学部学科、研究科専攻、勤務先）：
 3. 電話番号：
 4. メールアドレス：

申し込み締切日 4月8日（土）

※ただし、会場の定員になり次第締め切りますので、お早めにお申し込みください。

問い合わせ

京都大学技術士会事務局 担当：上田

E-mail：ya-fumi*kcn.ne.jp（*を@に変えてください）

備考（その他）

主催

京都大学大学院工学研究科

後援

京都大学技術士会

<http://hp.alumni.kyoto-u.ac.jp/about/compete/domestic/024.html>